

スヲ得ス之ヲ要スルニ被告ハ最初自己入札ノ落札セサルヲ遺憾ナリトシ謂レ無キ苦情ヲ以テ審ニ原告ノ入札ヲ取消サントノ素望ニ過キス甚タ不當ノ故障ト云可シ然ルニ東京控訴裁判所ハ被上告カ不當ノ片言ヲ信認セラレ前記ノ如ク裁判セラレシハ不法ノ裁判ト思考ス

辨明

本件ハ左ノ事項ヲ審究スルヲ緊要ナリトス

吉野金吾身代限財產賣却ニ付初審廳カ初度ノ入札ヲ取消テ再度入札セシメタルノ處置ハ似當アリヤ否ヤノコト

上告人ニ於テ初度入札ノ際落札セシ地所建物ハ總テ上告人カ抵當ニ取置キシトコロノモ
ノニシテ其代價ヲ他ノ債主ニ分配ヲ爲スハ其過剩ノ部分ノミナルカ故ニ其代價數廉ヲ併
セテ落札セシトテ之ヲ識別スルニ由ナキモノニアラサル旨申立ルト雖モ上告人第一號証
即チ地所建物ヲ抵當ニ取置キシ所ノ証ニ(字さいかし田壹反四畝貳步屋敷三畝貳步建家
一軒但シ建具造作付)トアリ而シテ上告人カ差出ス處ノ入札控書ヲ見ルニ其代價百五拾
壹圓ニテ落札セシ箇所ハ字さいかし田壹反四畝貳步宅地三畝貳步建家一軒同一軒雪隠一
ヶ所長屋一棟ナリ右上告人カ抵當ニ取リシ箇所ト落札セシ箇所トヲ比照スルニ落札セシ
箇所ノ内建家壹軒其外ハ抵當ニ取置キシ部分中ノモノニ非ス然レハ則チ上告人ハ其抵當
ニ取リシ箇所ト抵當ニ取ラサル箇所トヲ併セテ一纏メニ入札セシモノニシテ抵當ニア
ラサルモノ、代價ト抵當ニ取リシモノ、代價トヲ識別スルニ由ナキモノナレハ初審廳カ

初度ノ入札ヲ不都合ナリトシテ之ヲ取消シ再度入札セシメタル處置ハ不當ニアラスト
ス依テ原裁判所カ初審廳ニ於テ再入札ヲ命スルヤ止ヲ得サルニ出ルモノトシ被告(被上
告人)カ再入札ヲ請求スルモ相當ノ事ニシテ原告(上告人)ノ申立ハ相立サル旨裁判セシハ不當ト
云フヘキモノニアラス

但上告人ニ於テ初度ノ入札ヲ取消ニハ其費用ハ被上告人ヨリ償ハサルヲ得サル旨申立
ルト雖モ本文ノ如ク初審廳カ初度ノ入札ヲ取消タルノ處分不當ナラサル以上ハ其費
用ヲ要求スヘキ條理ナキハ無論ナリトス

判決

前辨明ノ通りナルニ依リ明治十五年三月三日東京控訴裁判所カ本訴ニ與ヘタル裁判ハ破毀
スヘキ理由ナシトス

但上告入費ハ上告人ヨリ辨納スヘシ

第二百七十號

○買受耕地引渡約定履行一件判文(明治十五年五月十一日上告)
明治十五年七月廿一日申渡

和歌山縣紀伊國伊都郡兄井

村平民

長岡 庄右衛門

東京府京橋區西紺屋町二十

一番地寄留滋賀縣士族

上告人

右代官人

三九二

高野榮次郎
和歌山縣紀伊國伊都郡三谷
村平民

被上告人

上田長兵衛

買受耕地引渡約定履行一件上告人ニ於テ大坂控訴裁判所ノ裁判ヲ不法トシテ破毀ヲ求ムル
上告ノ要点左ノ如シ

- 一 本件賣買ハ手附金授受アル契約ナルノミナラス右契約履行前ニ爲スヘキ仕事アルモノ
ナレハ其賣買ノコトハ未タ成シ遂ケタルニ非ス依テ買戻スコト得ルハ當然ナリトノコト
- 一 証人ヲ喚問サレサリシトノコト
- 一 論地引渡方ノ手續ヲ示サレシハ訴外ニ涉ラレタリトノコト

辨明

右上告ニ付之ヲ審按スルニ本訴ノ耕地并ニ立毛(賣買ナセシ當年既ニ植付アリシ稻苗ヲ指)賣買タル手附金ヲ授受シ且ツ該地ハ講會ノ抵當ニ差入アルヲ以テ之ヲ拔取リテ引渡スヘキ契約即チ上告人カ申立ル契約前爲スヘキ仕事アルモノナレハ未タ成シ遂ケサル賣買ナリト謂テ可ナリ然レモ其後上告人ハ該代金ノ内若干ヲ領受シタリ(講會抵當請出ノ爲メ)上告人ヨリ内金ヲ内金ヲ受取タルコトハ十分承認シタリ(此代金ヲ受取ラサル前手附金倍返等ノコトナシ)解除ヲ求ムルハ格別己ニ其代金ヲ受取タル以上ハ其手附金ノ契約ハ最早消滅シ賣買ノ約東十分結了セシモノトス左スレハ今被上告人カ殘代金ヲ拂ヒ其引渡ヲ得ントスルニ對シ

上告人ニ於テ之ヲ拒ムノ權毛頭無之モノトス斯ノ如ク契約結了ノ証徵明白ナル訴件ナレハ其當初契約ノ豫約ナリヤ如何ヲ取調フル爲メ証人ヲ召喚スルハ無要ノコトナリトス又本訴ハ被上告第一號耕地賣渡約定證書ニ付テノ争ニシテ上告人ニ於テ該証通り義務ヲ尽スヘキモノナレハ該証ノ明文ニ遵ヒ論地引渡方即チ講會ヨリ抵當ヲ拔クヘキ手續ヲ示スハ裁判官ノ職權上ニ於テ當然ノコトナリトス依テ原裁判所カ内金授受等ノ事跡アルヲ以テ論地所有權ハ被上告人ニ移タルモノトシ証人戸長ノ召喚ヲ要セス而シテ論地ハ講會抵當ヨリ拔取リ原告(上告人)ヨリ被告(被上告人)ヘ交付スヘキ旨申渡セシハ不當ニ非トス但シ本條ニ於テ本件緊要ノ点ヲ辨明セシニ依リ上告狀縷々ノ陳述ニ對シ逐一辨明セス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ大坂控訴裁判所カ明治十五年三月三日本訴買受耕地引渡約定履行ノ件ニ對シ與ヘタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス但シ上告入費ハ上告人ヨリ辨納スヘシ
第二百七十一號

○分附高代金請求一件判文(明治十五年五月十八日上告)
(明治十五年七月廿一日申渡)

福井縣越前國足羽郡福井佐

住枝上町百五番地平民

松村貞二郎

東京淺草區片町三番地寄留

三九三

上告人

代官人

福井縣平民

好見祐次

福井縣越前國足羽郡小羽村

十二番地平民

被上告人

萩原官造

分附高代金請求ノ一件大坂控訴裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ破毀ヲ求ムル主点左ノ如シ

一 原裁判所ハ印判鑑定者ノ申立ノ全部ヲ採用セス局部ヲ摘ミテ上告第一號証ヲ無効ナリトサレシトノコト

一 上告第一號証ヲ授受セシ譯台ヲ取調ヘラレサリシトノコト

一 上告第一號証印判ヲ再ヒ鑑定サレサリシトノコト

右之通ナルニ依リ上告狀參照ノ上前主点ニ對シ辨明判決アラントヲ乞

辨明

第一條

原裁判所ハ上告第一號証中萩原清左衛門名下ノ印影眞否如何ヲ現ニ審閱ノ上尙其參考トシテ初審廳鑑定人申立ノ内右印影ノ字畫清左衛門カ當時押用シタル實印ノ字畫ヨリモ四個ノ増畫アリトノ申立ハ確實ニシテ其同印ナリトノ申立ハ不確實ト認メ該証ヲ眞正ニ成立タルモノニアラサル旨判定シタルモノニシテ單ニ鑑定人ノ申立ノミニ依據セシニ非ス良シ依據セシモノトスルモ其鑑定人申立ノ確實ト認ムル部分ヲ採リ不確實ト認ムル部分

ヲ斥クルハ裁判官ノ職權内ニ在ルモノナレハ之ヲ不當ト謂チ得サルモノトス

第二條

右第一號証清左衛門名下ノ印影相違セル上ハ該契約ノ双方承諾上ニ成立タルモノニアラサルハ勿論ナリ然レハ仮令其証書ニ記載セル契約ノ趣意ハ如何ナル道理アルカ如キモ其承諾ナキ一方ニ對シ効力ノ及フヘキ理ナケレハ其成立ノ原因等ヲ取調フルヲ要セサルモノトス

第三條

原裁判所ハ前第一條辨明ノ理由ニテ上告第一號証ヲ無効トシタルモノナレハ再ヒ鑑定ヲ要スルニ及ハサルモノトス

判決

前條々辨明ノ次第ニ付大阪控訴裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス
但シ上告入費ハ上告人ヨリ辨納スヘシ

第二百七十二號

○質地受戻定約履行一件東京上等裁判所
裁判不法上告ノ判文(明治十四年十二月十七日上告)
(明治十五年七月廿二日申渡)

千葉縣下総國印旛郡大森村

二百十二番地平民

上告者

長濱彌惣平

右代人

三九六

宮 島 己 之 松

千葉縣下總國印幡郡發作村

四十七番地平民

被上告者

右代言人

腰 川 定 五 郎

太 田 英 壽

上告ノ旨趣左ノ如シ

原判文中「本訴原被告ニ於テ種々ノ申立アルト雖モ」トノミアリテ上告人カ最も重要ト
スル論地カ上告人ノ所有權有リトノハ嘗テ擯斥セラレタリ蓋シ論地ハ質地ニシテ其質
地金ハ上告人ヨリ償還スルノ期ヲ期限ト豫定シタル契約ナルコトハ上告第二號証ノミナラ
ス被上告第壹號証ニ於テ明カナリ故ニ上告人ハ此コトニ付原裁判所ヘ反覆申立テ爲セシ
ニ同裁判所ハ之ヲシテ審ニ種々ノ申立ノミト抹却セラレタルハ即チ聽斷ノ定規ニ乖キタ
ル裁判ナリトノコト

又同判文中「原告第壹號証ハ第三號証ニ因リ何人ノ所爲ニ出テタルヤ知ルヲ得ヘカラ
サルモ其証書ノ詐爲ニ成立タルコトハ既ニ確定セシモノニ付」云々ト有レモ上告第三號証
ハ上告第壹號証ヲ指示シテ作僞ナリトノ宣告ニハ非ラス何ントナレハ其文中「五平治
ヨリノ返地証ヲ詐爲セシ公訴アルニ依リ審問スル處該証書ハ受授或ハ何人ノ詐爲セシモ
ノナルヤ其証左ナク」云々トアルノミニテ即チ詐僞ノ證據ナシト明示セラルモノナリ豈
ニ夫レ證據ナクシテ苟モ詐僞ナリト宣告セラレシヤ又之ヲ飯リニ詐僞ニ成立タルモノト

宣告セラレシモノトセハ其詐僞ノ証書ハ法律上焉ソシテ沒収セサルノ理アラシク況ンヤ
上告第壹號証ハ當時宣告書ト共ニ下附セラレ而シテ擯斥ナシトアレハ旁以テ詐爲ノ確定セ
シモノニ非サルコト明カナリ然ルニ原裁判所ハ曲ケテ上文ノ如ク裁判セラレシハ最も不法
ノ裁判ナリトノコト

上告第壹號証ヲ指テ被上告人ハ上告人ノ詐爲ナリト謂フニ方リ原裁判所ハ印判職三名ニ
命令シ法廷ニ於テ該証ノ印影ヲ鑑定爲サシムルニ果シテ上告番外壹號鑑定証ノ如シ因茲
上告第壹號証ハ眞正確實トス然ルニ被上人ハ尙ホ之レニ抗抵セント欲シ上告人カ該証ヲ
摸僞シタルノ証ナリトシ被上告第十七號証ヲ提拱シ而テ第十八號ハ上告者ノ自書シテ其
筋ヘ差出置キタル証書ニシテ其十七號ト全筆ナルヲ以テ証スル旨主張スルニ方リ原裁判
所ハ又之レヲ鑑定爲サシムルニ果シテ上告番外第二號以下四號証ノ如シ夫レ被上告者ノ
主張スル此ノ如ク悉皆虛妄タルノ徵証ニシテ益々上告第壹號証ハ完全無欠ノ契約ナリト
ス然ルニ原裁判所ハ曩キニ印判鑑定ヲ緊要トシ又筆跡ノ如何ヲ必要視強テ鑑定ヲ爲サシ
メ以テ得タル所ノ証ハ悉ク之レヲ擯斥シ剩ヘ上告第三號証ノ明文ヲ曲ケテ裁判セラレシ
ハ頗ル其當ヲ失シタル不法ノ裁判ナリトノコト
被上告者ハ上告ノ不當ナルヲ駁シ原裁判ヲ辨護セリ

辨明

原裁判所カ本訴ニ對シ申渡シタル裁判ハ上告第一號ノ約定証ハ既ニ上告第三號ノ宣告書
ニ據リ詐僞ニ係リタルコトニ確定ナシタルハ今更上告者ハ該第一號証ヲ以テ論地ノ受戻ナ

三九七

請求スルヲ得ストノ一点ニ在リトス

上告第三號証即チ明治十三年十二月廿二日東京裁判所千葉支廳カ上告者へ對シ與ヘタル
宣告書ニ據レハ「其方儀發作村腰川定五郎(被上告者)父五平治ヨリノ返地証書(上告第一號証)ヲ詐
爲セシ公訴アルヲ以テ審問スル所該書ハ受授或ハ何人ノ詐爲セシモノナルヤ其証左ナシ
云々其方ニ於テハ右返地証書ヲ詐爲シタルモノニアラスト認定スルニ因リ無擔トアリ
テ即チ該宣告書ハ偽造ノ証左ナシトノ旨趣ナリトス

被上告第十六號証即チ明治十四年七月十九日東京上等裁判所カ原被告へ對シ申渡シタル
判文中ニ「該宣告書(上告第一號証)ヲ閱スルニ返リ証書(上告第一號証)ノ偽造タルコトハ固ヨリ明白ナ
ル如クナレハ只原告(上告)ノ所爲ニ非スト云フノ趣旨ナリ」云々トアルモ右ハ單ニ明白ナ
ルカ如シトアルノミニテ果シテ偽造ニ係リタリト云ヒニアラスト加之其根元ナル上告第
三號ノ宣告書ニハ果シテ何人ノ偽造ニ係リタルヤ其証左ナシト掲載シアレハ仮ヒ該宣告
書ノ文詞上或ハ偽造ニ係リタルカ如キ意味ニ開ユルモ之ヲ偽造ノ証書ト爲スヲ得ス既ニ
偽造ノ証書ト爲スヲ得サレハ右裁判ハ確定スルモ上告第一號証ハ果シテ偽造ニ係リタル
モノト爲スノ効力アラサルモノトス
之ヲ要スルニ到底上告第三號ノ宣告書ハ上告第一號証ノ偽造ニ係リタル証左ナシトノ趣
旨ニ止リ偽造ニ係リト宣告ナシタルモノニアラストス
然ルチ原裁判所ニ於テ(原告第一號証(上告第一號証)ハ第三號証(上告第一號証)ニ因リ何人ノ所爲ニ

出テタルヤ知ルヲ得ヘカヲサルモ其証書ノ詐偽ニ成立チタルコトハ已ニ確定セシモノニ
付「云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年十月三十一日東京上等裁判所ニ於テ本訴質地受戻約定履
行一件ニ對シ申渡シタル終審裁判ヲ破毀シ之ヲ名古屋控訴裁判所へ移スニ依リ同裁判所ノ
裁判ヲ受クヘキモノナリ

但シ上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ
第二百七十三號

○田地所有權爭論一件宮城上等裁判所
裁判不當上告ノ判文(明治十四年十二月一日上告)
(明治十五年七月廿五日申渡)

福島縣岩城國磐前郡西郷村

字金山二百六番地

平民

箱崎甚八

中村峻也

福島縣磐城國磐前郡西郷村

字大夫八十九番地平民

玉村清彌

被上告者

右代官人

上告ノ要旨

關 內 兵 吉

四〇〇

抑モ裁判取扱規則第三條ニ曰ク成文ノ法律ナキモノハ習慣ニ依リ習慣ナキモノハ條理ニ依ルトアリ然ニ宮城上等裁判所ハ其言渡書曰ク(被告ハ)原告第一號証被告名下ノ印影ハ其實印ニ相違スル旨陳述スト雖(中)論地ハ地租改正ニ關スル臺帳ヲ初メトシテ其他ノ諸帳簿ニ於ケルモ原告(被告)ノ所有主タルニ適合スルモノナレハ原被告直接ノ質地ニアラサルモ當時相互ノ協議上其所有權ヲ移轉シタルモノト看認メサルヲ得スト夫レ事實ヲ認定セント欲スルヤ徒ニ我意思ニ從フヘカラス必スヤ徵憑ノ相集合スルモノニ由テ初メテ一ノ証據ヲ得テ認定ヲ決スルモノナリ然ラズハ認定ハ認定ニアラサルナリ抑モ宮城上等裁判所カ本訴判決ノ材料トセラレシハ單ニ被告第一號証ニシテ上告者カ提供スル証據并ニ申陳スル事實ヲ以テ苦情タルニ過キサルモノトセラレタレハ夫レ不動產賣買ノ公式ハ鄭重ヲ要スルモノニシテ即チ不動產ハ祖先傳來ノ財產ナレハ實ニ不動產ニシテ人民生命ノ賴ヲ以テ全カラシムヲ希望スル第一ノ貨物ナレハ之ヲ他人ニ賣却スルヤ萬己ムヲ得サル事情アルヨリ出ルモノナルノミナラス凡ソ質入トナセシ借用金ハ賣買ノ眞價ヨリ幾割ノ下直ナルハ質入ノ通慣ナリ然ラハ則チ上告者ハ質入ノ借用金ニテ之ヲ賣却スルノ利アラシヤ況ンヤ他人即チ金成新作ヨリ廻質トナリシモノニテ上告者ハ初メヨリ之ヲ承諾セサルモノナリ又況ンヤ質入年期中ナルニ於テオヤ又況ンヤ被告ハ地租改正大量擔當人ナリ豈ニ地所賣買手續ノ正當ニテサ、ルヘカラサルヲ知ラサルノ

理アラシヤ果シ然ラハ何ソ一片紙ノ受取書中ノ文言ニ賴テ所有權ヲ移轉スル如キ輕率アルヘカラサルコト於テオヤ且上告者番外第二號証ハ即チ証印稅上納ノ受取証ナリ其ノ時日明治九年九月廿七日ニ被上告一號証ノ事實トハ一年余ノ相違アリ況ンヤ被告第一號証記載ニハ地券入費拾二錢トアレ論地ニ付上納セシハ六錢五厘五毛ニシテ是亦其額ヲ異ニセリ殊ニ被上告者カ原裁判所ニ於テ論辨スル所ニ由レハ被告第一號証ハ明治八年五月中地租改正ニ際シ一時看定人ナル者ヲ定メ被上告者カ上告者ト共ニ丈量帳調査セシ時流地ノ口約ヲナシ右第一號証ヲ得タリトアリ夫レ然リ豈ニ夫レ然ラシヤ上告者等カ丈量帳調査ノ爲メ出張セシハ同年六月五日ヨリ十九日迄ノ間ニ在テ決シテ五月中ニアラサルナリ又被告上告者カ印影ヲ以テ喋々スルモ印章ハ巧ニ摸造サレタランニハ本印ト毫髮ノ差ナク似スルヲ得ルモノニシテ如何程熟練ナル鑑定者ト雖モ其眞偽ヲ識別シ能ハサルナリ故ニ被告第一號証ニ押印セシ印影ハ上告者カ實印同一ナリト鑑定セラレタリトテ前陳ノ如キ理由アレハ固ヨリ上告者カ交付セシ眞正ノ証ト云フヲ得サルナリ之ヲ要スルニ被告第一號証ハ成立ノ事實決シテ無之況ンヤ其印影ノ不正ナルオヤトノ上告者カ答辨ニ對シ原裁判所ハ特リ印影ノ鑑定ノミヲ以テ上告者カ提供スル証據ト申述スル事實ヲ舍テ、判決ヲ下サレタルハ即チ上文ニ所謂條理ニ依サル不法ノ裁判ナリト思惟スト

答辨ノ要旨

抑モ宮城上等裁判所ニ於テ論地ハ被告第一號証及ヒ地租改正ニ關スル地券臺帳ヲ始メトシ其他ノ諸公簿ニ於ケルモ被告上告者ノ所有ニ適合スルモノナレハ上告者カ陳供ハ苦情

ニ過キサルモノト謂ハサルヲ得ス云々ト判定セラレタルハ最モ至當ノ裁判ト思考セリ如
 何トナレハ上告者ハ明治四年二月中負債ノ爲メ各債主ヘ對シ分散ニ際シ金成新作ナル者
 ニ於ルモ當時其債主中ノ一人ニシテ曾テ上告者ヘ貸附金二十二圓五十錢有之ニ付改メテ
 論地ヲ明治四年ヨリ同十二年迄九ケ年季ノ質地ニ金成新作ニ取置キタル所爾來明治六年
 三月ニ至リ金成新作モ金員入用ノ筋有之ヘキニテ上告者及ヒ新作共々被上告者方ヘ來リ
 曾テ質地ニ預リ置ク田地廻リ質地ト爲シ吳レヨトノ申入ナルニ付金二十圓五十錢ヲ貸與
 シ廻シ質地トナシタリ然ルニ明治八年改正反別取調ノ義令セラレ其丈量着手ノ折柄上告
 者ニ於テ論地ハ將來受ケ戻スヘキ見込ニ無之故ニ借用金ヲ以テ被上告者ノ所有地ニ引受
 ケラレ度キ旨ノ頼談アリタレト當時耕地反別改正ニ就テ其費用ヲ各戸ニ賦課セラレ、
 莫大爲メニ地方ニ於テハ田地ノ賣人ノミニシテ買人ハ更ニ無之從テ田地賣買ノ價モ亦安
 價ナリ故ニ質代金ヲ以テ引受難キ旨相斷リタレト上告者及ヒ金成新作共々強テ頼談ニ付
 止ムテ得ス質代金ヲ以テ流地トナシ其段村吏ヘモ上告者及ヒ被上告者共々届出テ相當ノ
 手續ヲ爲シタルモノナリ尙當時上告者ニ於テ明治六年度ノ地券取調諸入用並ニ論地ノ証
 印稅ヲ辨償受ケ度旨申入ニ付是亦領承シ被上告第一號証ヲ受ケ取リタルモノナリ且當時
 ハ上告者被上告者モ共々村民ヨリ耕地々位ノ鑑定人ニ撰舉セラレ上告者ト共々村民各自
 ノ持地ニ畝杭ヲ立テ其鑑定ノ事並ニ等級取調ニ從事シタルモノニ有之故ニ村吏ニ於テ該
 丈量ニ關スル諸帳簿及ヒ地券臺帳或ハ名寄帳等總テ被上告者ノ名義ニ取調ヘ之レカ地券
 ナモ受領シタルハ被上告者ヘ地所々有權ノ移轉シタルコトハ明白ナレハナリト

辨明

論地ハ明治四年中上告者ヨリ金成新作ナルモノヘ明治十二年迄九ケ年間質入レニ爲シ其
 年期中ナル明治六年度ニ於テ金成新作ヨリ被上告者ヘ右年期間之ヲ轉質ニ爲シタリトハ
 原被告両造ノ申供符合スル所ナレハ其被上告者ハ上告者ヨリ直接ニ質地ニ受取リタル者
 ニアラヌ又其上告者ヨリ流地ニ受取リタリト云フ明治八年ハ未タ其質入年限中ナルコトハ
 明白ナリト云フヘキナリ

凡ソ質地ヲ流地ニ爲ス所以ノモノハ其質入年期ノ滿限ニ至リ質地返濟ナリカタキヨリ不
 得己其地所ヲ債主ニ引渡スヘキモノニシテ事實賣買代價ハ其質代金ヨリ幾分カノ高價ヲ
 有スヘケレハ質入主ニ於テハ其質入年期ノ滿限ニ至ル迄ハ其質代金ニテ之カ所有ヲ離ル
 ハ、コト欲セサルノ事情アルヘキナリ故ニ若シモ年限内流地ニ爲ス等其質入レノ契約ヲ變
 更スルコトアル場合ニ於テハ必スヤ特ニ其契約アルヘキハ勿論本訴ノ質地ハ原被告間直接
 ノ受授ニ係リタルニモアラサレハ猶更之カ流地ノ場合等ハ鄭重ニ其契約ノ締結ヲ要スヘ
 キ筈ナルニ被上告者ハ絶テ其契約証ヲ原裁判所ヘ提出スルヲ得サレハ論地ハ果シテ流地
 ニナリタルモノト確認スルコト足ルヘキ証憑ナキモノトス

被上告第一號証上告者名下ノ押印ハ被上告第三號証田畑等級収獲米穀書上帳中上告者名
 下ノ押印ト同印ナリトスルモ該第一號証ハ本件ノ控訴ニ至リ始メテ之ヲ提出セシモノニ
 シテ該証中「右者改正字大夫田壹反壹畝九分廻リ質代金ヲ以テ流地ニ相渡候ニ付」云々ト
 アルモ被上告者カ始審裁判所ヘ提供セシ訴狀ニ據レハ論地ヲ流地ニ受取リタル確証ハ一

モ之レナシト明言セシコアラズヤ被上告者ハ始審ノ際該第一號証ノ所載ヲ失ヒタリト申立ルモ果シテ其所載ヲ失ヒタルモノナレハ當時宜ク其申立ヲ爲シ確証ハ更ニ之レナシト斷言スヘキ理由アラズ加之該証ニ記載スル所ノ地券入費ノ如キ上告者ハ不適當ノ員數ナリト原裁判所ニ於テ論辨スル所ナレハ宜ク之レカ審理ヲ遂ケサレハ該証記載ノ員數ハ果シテ適實ノモノナリト見做シ難キモノトス

假ヒ公クノ簿冊又ハ地券証等ニ地所々有者ノ名義登記アルモ其地所ヲ所有セシ相當ノ証左ナカルヘカラス其証左ナキ場合ニ於テハ其登記ノ効ヲ有セサルコアリトス如何トナレハ地所ヲ所有セシ証左ハ其所有ノ原因ニシテ簿冊等ニ登記スルハ其効果ナレハ原因ナクシテ効果ヲ顯ハスヘキ道理ナクレハナリ然レハ地券臺帳及ヒ其他ノ公簿上論地ハ被上告者ノ名義ニ登記アルモ其原因タル流地ノ契約証ナキノミナラス此登記ハ果シテ何等ノ手續ヲ經テ成立タルモノナルヤ此登記ニ付必要ナル上告者カ承認ヲ得タル証左ハ被上告者ニ於テ原裁判所ニ提出スルヲ得カレハ論地ヲ被上告者カ所有セシ原因ハ之ヲ知ルニ由ナカルヘキナリ

以上辨明ノ如ク要スルニ被上告者ハ論地ヲ流地ニ受取リタルトノ確証ナク又地券臺帳其他ノ公簿ニ被上告者ノ名義登記アルモ上告者カ承認ヲ經タルトノ証憑ナクレハ原裁判所カ採テ以テ裁判ノ材料ト爲シタル被上告第一號証及ヒ地券臺帳其他ノ公簿等ハ果シテ正當ノ事實ヨリ成立タルモノナルヤ否チ審理究明セサルヘカラス然ルニ原裁判所ハ單ニ被上告第一號証上告者名下ノ押印ハ被上告第三號証田畑等級収獲米穀書上帳中上告者名下

ノ押印ト同印ナレハ真正ノ者ト爲シ被上告者カ始審裁判所ニ於テ流地ノ証憑ナシトノ申立及ヒ控訴ニ至リ始メテ該第一號証ヲ提出シ且ツ該証ニ記載スル地券入費ノ員數相違アル等ノ事實ハ毫モ審究ヲ與ヘス又地券臺帳其他ノ公簿上現ニ被上告者ノ名前登記アルトテ直チニ被上告者ヲ以テ論地ノ所有者ト爲シ其公簿ハ果シテ上告者カ承認上公正ノ手續ヲ經テ成立チタルモノナルヤ否ノ点ニハ更ニ審究ヲ及ホサレハ即チ尽スヘキ審理ヲ尽サレ不法ノ裁判ナリトス

判決

右辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年九月廿四日宮城上等裁判所ニ於テ本訴田地所有權爭論一件ニ對シ申渡シタル終審裁判ヲ破毀シ之ヲ東京控訴裁判所ニ移スニ依リ同裁判所ノ裁判ヲ受クヘキモノナリ

但シ本件上告ニ係ル入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第二百七十四號

○立木所有權爭論一件東京上等裁判所ノ
 裁判ヲ不當トスル上告ノ判文(明治十五年二月十日上告
 明治十五年七月廿五日申渡)

椽木縣下野國河内郡戸祭村

三十六番地平民

上告人

落合サキ

東京府神田區今川小路二

丁目七番地寄留熊本縣

平民

右代言人

白石剛

熊本縣下野國河内郡戸祭村

十二番地平民

中村林平

被上告人

上告要領

第一條

原判文ヲ閱スルニ始メ「乙第二號証(被上告)ハ有効ノ者ナルヤ否ヲ判定スルニ在リ」トアリ次ニ「乙第二號証ハ嘉永三年中政藏ナル者ヨリ交付シタル約定書ニシテ其政藏ハ嘉永年度ニ被告先代戸主ニ有之隨テ右乙第二號証ヲ原告ヘ差入タルニ相違ナキ趣ハ政藏及所役人ノ証明スル所ト所役場ニ備アル帳簿トニ據リ明カナレハ之ヲ有効ノ者ト認メサルヲ得ス」トアリ要スルニ該判旨ハ被上告第二號証ヲ有効確實ノモノト誤認シタル裁判ニ外ナラス而シテ被上告第二號証タル素ヨリ根據ナキ寫書ナリ被上告人ハ元ト之レカ本書ヲ受領シ置キタルヲ己ニ上告人ヘ返還シタリト云フモ上告人ハ上告第一號証ヲ受領シタルノミニシテ被上告第二號証ヲ受領シタルヲナシ而モ該証ハ其實之レナキモノナレハ從テ之ヲ返還スルニ由ナク之ヲ返還シタリトハ被上告人カ虛妄ノ陳述ニ過キサレハ信ヲ措ク能ハサルモノナリ夫レ政藏ハ去ル天保七年ノ頃犯罪ノ爲メ追放セラレ其後戸祭村ノ人民ト

ナリシモ金圓ノ爲メナレハ如何ナルヲモ爲スヘキ惡奸ニシテ今回モ被上告人ト共謀シ居ルモノナレハ政藏ノ申供ハ最モ信ヲ措ク能ハス且所役人ノ證明スル所トアルモ所役人ハ何等ノ證據ニ依テ被上告第二號証ノ有効ナルヲ証明シタルヤ決テ之ヲ證明シタルヲナシ又帳簿ニ據リ明カナリトアルモ其帳簿トハ印影モ之レナク只政藏ノ名義ヲ單ニ記載シアルノミ仮令之ヲ真正ノモノトスルモ政藏カ嘉永年度ニ戸祭村ノ人民タリシヲ知ルニ足ルノミ毫モ被上告第二號証ノ有無ハ勿論有効無効ヲ看ルヘキ所アルヲナシ左レハ政藏ノ申供モ口頭ニ止マリ所役人即チ筆生石塚勘一ノ申供モアルヘキ所ナクレハ何レモ被上告第二號証ノ有効ナルヤ否ヲ觀ルヘキ所アルニアラス然ルニ原裁判所カ上告第一號証ニハ何等ノ判語モ與ヘスシテ之ヲ排斥シ被上告第二號証ヲ採用シタルハ採證法ニ違フタル不當ノ裁判ナリトノ事

第二條

原判文ニ「而テ其乙第二號証中ニ上木ノ分伐取地面計リ御戻シ可被成候トアリテ之ヲ取消ス可キ証ナキ限ハ云々」トアルモ抑モ被上告第二號証ハ其實之レナキモノナレハ其明文ノ如何ニ關スルモノニアラス又上告人ハ絶テ被上告第二號証ヲ取消スヘキ證據ナキニシテモアラス即チ上告第二號証是ナリ該証ハ被上告人ノ自筆ニシテ上告人カ警察署ニ訴タル際被上告人ハ政藏ヨリ更ニ該証ヲ受取ントシ其下書ヲ政藏ニ渡シ置タルヲ其際隣ニ立入タル加藤正基カ之ヲ預リ置キ上告人ニ貸渡シタルモノニテ若シ被上告第二號証之アリトセハ又何ソ上告第二號証ヲ政藏ヨリ更ニ取ラントスルニ及ハンヤ斯ク被上告第二號証

ヲ取消スニ足ルヘキ證據アルニ何タル判語モ與フルナク漫ニ被上告第二號証ヲ取消ヘキ
證據ナシト裁判シタルハ不當ナリトノ事
被上告者ハ上告ヲ不當ナリト論述シテ原裁判ヲ辨護セリ

判決

本訴ハ曾テ被上告第二號証ノ如キ契約アリタルヤ否ヤヲ審理スヘキモノナリ
始審以來被上告者ノ陳述ニ依レハ天保八年十二月中落合久右衛門ト論地質受ノ契約ヲ結
ヒ上告第一號証ニ被上告第二號証ヲ添テ取受ケ置キ又嘉永三年中落合政藏ト更ニ之レカ
質受ケノ契約ヲ爲シ被上告第二號証ヲ取受ケタリト云ヘリ
今其三箇ノ証書ヲ閱スルニ上告第一號証ハ文政十二年十二月中上告者先代熊藏ヨリ忠兵
衛ナル者ヘ五ヶ年期質地ノ契約ヲ爲シタル証書ニシテ其立木ハ質置主ニ於テ伐採スヘ
キ明文ヲ掲ケタルモノナリ被上告第一號証ハ天保八年十二月中久右衛門ナル者ヨリ己レ
カ取受ケ置キタル質地ヲ更ニ被上告者ノ先代吉左衛門ヘ質入ノ契約ヲ爲シタル証書ニシ
テ年期其他ノ事項ノ記載ナキモノナリ被上告第二號証ハ嘉永三年中〔月日ノ記載ナシ〕政
藏ナル者ヨリ被上告者ノ先代吉左衛門ヘ二十七ヶ年期質地ノ契約ヲ爲シタル証書ノ寫ニ
シテ其立木ハ質取主ニ於テ伐採スヘキ明文ヲ掲ケタルモノナリ抑モ被上告者ハ上告第一
號証ニ被上告第一號証ヲ添ヘテ取受ケタルモノナレハ其後更ニ質地ノ契約ヲ爲シタリト
云フ嘉永三年ニ至ルマテ二十七年ノ久シキ双方ニ何等ノ異議ナキヲ觀レモ其年期及伐木
ノコトハ上告第一號証ノ契約ヲ据置キタルコト判明ナレハ其契約ノ當初文政十二年ヨリ明治

十二年迄ハ依然トシテ質地年期ノ契約中タルコト論ヲ俟タサルナリ然レハ被上告第二號証
ノ如ク更ニ二十七ヶ年期ノ契約ヲ爲スヘキノ理ナキコト爲シタリト云フハ信ヲ措キ難
キモノナリ况ンヤ其第二號証ハ被上告者カ政藏ニ追テ得タル寫書ナリト明言スル者ニシ
テ且政藏ハ何ニ依テ之ヲ記シタルヤ其根據スル所ヲ証セサルモノナルニ於テ若夫被
上告第二號証ノ如ク當時契約シタルモノナリセハ上告第一號証及被上告第一號証ハ既ニ
取消シアルヘキニ之ヲ取消シタルコトナク現ニ其上告第一號証ハ明治十三年二月返地ノ際
還付セリ加旃被上告者ハ故ラニ上告第二號証ヲ落合政藏ヨリ取受ケント欲シテ自カラ起
艸シナカラ曾テ伐木ノ契約アリタルノ趣旨ニ記セスシテ新ニ伐採シ得ヘキ趣旨ニ筆セリ
是ニ由テ之ヲ觀ハ落合政藏ハ嘉永年中上告者ノ前戸主ニアリシト否トヲ論セス被上告第
二號ノ証ノ如キ契約書ハ當時授受シタルモノニアラサルコト愈明白ナリトス
然ルニ原裁判所ハ政藏ノ根據スル所ナキ申述ト戸長代理筆生石塚勘一カ村方連印ノ書面
等ニ政藏ノ連印アルヲ以テ政藏ハ上告者ノ前戸主ニアリタルヘシト陳述シタル所トニ依
リ直ニ被上告第二號証ヲ有効ノモノト速斷シタルハ事理ノ推究ヲ誤リタル不當ノ裁判ナ
リトス

右ノ筋合ナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ本案ノ裁判ヲ爲スコト左ノ
如シ

前ニ掲グル理由ナルヲ以テ本訴ノ立木ハ被上告者ニ於テ伐採スルヲ得サルモノト裁定ス
但訴訟入費ハ都テ被上告ヨリ償却スヘシ

○畑地買戻一件判文(明治十五年二月十日上告) 明治十五年七月廿五日申渡

茨城縣常陸國新治郡上土田 村拾四番地觀音寺住職

上告人 戸井田專教

東京府淺草區北東仲町二番

地寄留茨城縣平民

內藤五郎

茨城縣常陸國新治郡上土田

村三拾七番地平民

鈴木文助

右同村三拾四番地平民

鈴木文四郎

東京府日本橋區上槇町八番

地寄留茨城縣平民

岡野寛

代理人

畑地買戻一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ主点左ノ如シ 第一上告者ハ論地ノ拾ケ年限賣買タルヲ証明セン爲甲第二號(畑地賣渡證書)甲第四號

(畑方反別帳)甲第十二號(觀音寺畑方賣捌帳)等ヲ提供シタリ被上告者ニ於テ永代賣買 ナリシト云ヘルハ唯口頭ノ陳述ニ止リ何等ノ證據モ舉タル事ナシ然ルヲ原裁判所ハ特

ニ上告者ノ證據ヲ無効ニ歸セシメタルハ不當ノ裁判ナリトノ事

第二甲第四號ニ明治三年ヨリ拾ケ年ト付箋セシハ名主飯沼徳三郎カ職務上ニテ爲シタ

ルモノナリ又其徳三郎カ甲第二號ニ連署セシハ觀音寺檀中總代ニテ爲シタルモノナル

ヲ原裁判所ハ之レカ區別ヲ審理セサリシトノ事

第三甲第拾二號ハ被上告者ノ求メニヨリ提供セシモノナレハ被上告者自身ノ證據ニ異ナ

ラス而シテ其簿冊ニ拾ケ年定ト記入シアルヲ採用セサリシハ不當ナリトノ事

第四被上告カ地券ヲ受ケタルハ本訴ノ曲直ニ關セサルヲ之ヲ判決資料トセシハ不當ナリ

トノ事 被上告人ハ原裁判ノ不當ニ非ル理由ヲ弁護セリ

判決

上告ノ旨趣ハ上告者カ拾ケ年限賣買地タル證據トセシ甲第二號甲第四號甲第十二號証ヲ原 裁判所ニ於テ無効ト認定シ而シテ被上告者カ無證據ノ陳述ト地券ヲ有セルトニ據リ永代賣 買ト判決セシハ不當ノ裁判ト云フニアリ

然ルニ上告者ノ提供セシ甲第二號ナル地所賣渡證書即拾ケ年定ノ明文アルモノハ賣買ノ當 時名主飯沼徳三郎カ被上告人ヘ地所買取金ヲ貸與ヘ其金子返濟迄ノ間預リ置キシヲ今般發 見セシ趣ナリト雖モ其徳三郎ナル者ハ觀音寺檀中總代ノ名義ヲ以證書ニ連署セシ賣主ノ一

人タレハ賣主自カラ賣渡証書ヲ預リシトテ貸金ノ抵當トナルヘキ理由ナキノミナラズ被上告人ニ於テ素ト論地ハ入札ニテ買受ケ証書ヲ授受セサリシ旨申立ル上ハ之ヲ無効ト認定セシハ其理アルモノトス

又甲第四號ナル村役場ノ帳簿ニ拾ケ年ノ付箋アルモノ之ヲ保持セシ戸長ハ即賣主ノ壹人ナル徳一郎ヲレハ尋常村役場ノ簿札ヲ以テ証スル場合ト一様ニ論シ難キ理アリ

又甲第十二號ナル地所賣拂ノ節ノ帳簿ニ拾ケ年定トアルモ賣主一方ニ關スルモノタレハ買主ヲシテ今更之ニ服從セシムヘキ効力ヲ有セズ

斯ク上告者ノ証據ヲ無効ト認定セシ至當ノ理由アルコト於テハ被上告者ハ永代賣買ノ証據ヲ舉クルノ責任ヲシトス如何トナレハ年季賣買ハ普通賣買ノ契約ニ異ナリ特別ノ契約ニ係ルモノトス故ニ之レカ証據ヲ舉クルハ特別ノ契約アリシト主張スル者ノ任ニアリテ普通即永代賣買ナリシト云フ者ノ任ニアラサルヲ以テナリ上告者既ニ特別契約ノ証據ヲ舉ケタリト雖モ遂ニ無効ニ歸シタル以上ハ被上告者ハ即舉証ノ責任ヲ免カレタルモノトス

右ニ辨明セシ如ク東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

但シ上告入費ハ上告人ノ負擔スヘシ

第二百七十六號

○境界地約定不服取消一件判文 (明治十五年二月廿五日上告
明治十五年七月廿五日申渡)

新瀉縣越後國中頸城郡楡島
村平民西澤長九郎初

二十一名惣代兼同村
平民

鈴木傳藏
鈴木八十郎

東京府神田區淡路町一丁目
一番地寄留愛知縣平民

新瀉縣越後國中頸城郡
村 山頼三郎

東關村

右代言人
被上告人

境界地約定不服取消一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシ破毀ヲ求ルル要領左ノ如シ
第一條

原裁判所ニ於テ上告者ハ乙第五號証ハ西澤茂作一己ノ所爲ニ出テタルモノニテ無効ナルカ故之ヲ取消シタルヲ証スル爲メ則チ乙第一號証ヲ提出シタリ該証ハ被上告村ノ總代タル飯塚三五郎ト上告村民ニシテ總代ニアラサル西澤茂作ト連署ニテ上告者ノ總代タル鈴木八十郎ヘ宛タル手翰ニシテ其文中ニ(兼テ事件ノ儀ハ西澤君定約相定)云々トアリテ其未文ニ(幾重ニモ示談可仕ニ付是非歸村)云々トアルヲ視レハ乙第五號証ニ總代鈴木八十郎ノ押印アルモ總代權ヲ有セサル茂作カ取計ヒナルヲハ明瞭ナルノミナラス其乙第五號証ハ原ト西澤茂作ト書記シタル上ヲ貼付シテ鈴木八十郎ト書加ヘタルモノナリ是等ニ據

テ視ルモ乙第五號証ハ總代權ナキ茂作カ擅斷ニ出テタルモノナルカ故之ヲ取消シ乙第三四號証ト改正セシメノ事實ヲ視ルニ足レリ斯ノ如ク乙第五號証ノ成立如何ヲ斷定スルニハ尤緊要ナル乙第一號証ニシテ被上告者モ又該乙第一號証ノ駁撃ヲ試ミタルニ原裁判所カ其乙第一號証ニ一語ノ辨明モナク又乙第五號証ノ成立如何ノ判定モナク却テ乙第五號証ハ消滅シタルモノニアラスト云フ初審裁判ノ通リト判決セラレタル不尽不當ノ裁判ナリト思考セリ

第二條

原裁判所ノ判文中(初メヨリ論地ハ甲第五號圖面而無着色ノ間ニ外ナラス然ルニ甲第二號証(乙第三號)ノ約定ニ基キ原被告立會實地ヲ測量シタル所ノ明治十四年七月廿七日付ノ圖面ノ境界線ニ據レハ甲第五號圖面ノ論地ノ外若干餘分ノ地所ヲ原告ヘ與フ可キ姿ニ相成且被告ハ己ニ地券ヲ受ケル田地ヲ裂キ原告ヘ與ヘサルヲ得サルニ至ルト云フ果シテ然ラハ人情アル可カラサル事柄ナル故全ク被告カ錯誤ニ出テタルモノト(認定サレタル)上告者ニ於テハ甲第五號圖面無着色ノ東端ナル朱線ハ甲第二號証(乙第三號証)ニ於テ(乙第三號証)ト同証ナリ)ニアル午ノ六歩見通シニ當リ原被告立會實測ヲナシタル明治十四年七月廿七日付圖面ノ境界線ハ則チ甲第五號圖中論地東端ノ朱線ニシテ論地ナル被上告村ノ地所ヲ侵カサル旨ヲ申立タルノミナラス實際論外地ヲ侵スカ如キ境界線ニアラサルカ故被上告モ明治十四年十二月二十日以前ニ在テハ午ノ六歩見通シハ則チ論地ノ東端ナリト陳述セシテ明治十四年十二月二十日被上告者ハ代人ヲ改撰シ同日申書ヲ以テ(午ノ六歩ト見通スキハ云云江筋ヨ

リ東ノ帶地ノ如キ無論地ト確定シタル被告村ノ地ヲ全侵シ倘茲ニ止ラス會テ一回ノ爭論ナキ被告ノ地内江迄侵入スルニ至ルト)變言セシモ甲第五號圖ト原被告立會ノ實測圖ヲ比照スレハ無論地ヲ侵カサル一目瞭ナルニ次後一應ノ對審モナク單ニ被告ノ片言ヲ採リ論地ノ外若干餘歩ノ地所ヲ原告ヘ與ス可キ姿ニ相成ルト妄斷セラレタルハ不當モ又甚シ然ノミナラス被上告者カ控訴廳ニ於テ地券ヲ申受ケタル田地ヲ裂キ原告ヘ與ヘサルヲ得スト申立タルトナシ良シ斯ノ如キ申立ヲナシタルトスルモ判官カ其眞否ヲ認メサル証據ハ判文中(果シテ然ラハ)トアリテ未必ノ事柄ナル炳然タリ然ノミナラス現ニ原被告立會ノ實測圖午ノ六歩見通シトアル近傍石積ヨリ西ニ田地ナキハ該圖中色分ケノ凡例ニ田畑ハ黃色トアリ原被告共調印セリ而シテ石積ヨリ西ノ方ニ黃色ナキヲ以テ視レハ被上告村ノ田地ヲ侵カサル明瞭ナリ又被上告甲第五號証ニ於テモ田地ハ(田)ト朱記シアリテ田地ヲ侵カサル明カナリ然ルニ其被上告村カ地券ヲ受ケタル田地ヲ侵シタリト云フ未必ノ事柄ヲ以テ錯誤ノ原因トシ上告者ノ申立ヲ排斥セラレタルハ不當ニシテ其地券拜受ノ如キハ上告者モ午ノ六歩見通シトアル朱線迄ノ地券ヲ拜受シ二重ノ地券ナルヲ申立アルニ審理玆ニ及ハサルハ不盡ノ裁判ナリ

但シ被上告者カ地券ヲ受ケタル田地ヲ裂キ云々ハ曩ニ初審廳ニ於テ原被告共磁石ノ方位ヲ誤リ被上告村ノ田地四畝歩餘ヲ侵スト申立タルアリト雖モ個ハ扣訴ニ至リ原被告立會實測ヲナシタルカ故其田地ヲ侵カサル明瞭ナリ然ルニ扣訴裁判官ハ曩ニ初審廳ニ於テ甘結シタル原被告ノ口供ヲ誤見セラレタルヨリ出テタル速了ノ裁判ナリト思考セ

リ然ラサレハ地券ヲ受ケタル田地云々ノ語ヲ掲出セラル可ノ謂レナシ果シテ然ラハ倍々以テ不當ノ裁判ナリト思考セリ

第三條

上告者ハ原裁判所ニ於テ乙第三號証(甲第二號証ト同証)ハ元ヨリ錯誤ニ出テタル者ニアラト雖モ暫ク之ヲ錯誤ノ証ナリト仮定スルモ其乙第三號証ヲ取消スニ止リ曩ニ取消シタル乙第五號証カ再ヒ有効トナル可キ理由ナシ又始審廳カ判文ノ但書ニ於テ乙第四號証中先般高田云々以下ノ約旨ハ錯誤ニ出テタルヲ以テ効力ヲ失フタリト一通ノ証書ヲ半ハ有効トシ半ハ無効トスルカ如キハ不法ノ裁判ニシテ不服ノ堪ヘサル處ナリト申立テ被上告者モ之ヲ駁撃シテ該乙第五號証ノ効力カ再燃スルヤ否乙第三號証ノ半ハ有効トシ半ハ無効トスルヤ否ハ一ツノ争点ナルニ此争点ニ對スルノ辨明ナク初審裁判ノ通相心得云々ト判決セラレタルハ不當ノ裁判ナリト思考セリ

辨明

本件上告ハ左ノ三項ヲ審明スルヲ緊要トス

- 一 上告乙第五號証(被上告甲第一號)ハ上告村ノ承認セサルモノナルヤ否ノ一
- 一 上告乙第三號証(被上告甲第二號)ハ錯誤ニ出タル約定ナルヤ否ノ一
- 一 上告乙第五號証ノ効力再生スルヤ否ト乙第三號証ノ一半ヲ有効トシ一半ヲ無効トスルヤ否ノ争点ニ對シ原裁判所カ辨明ヲ與ヘサリシハ不當ナルヤ否ノ一

第一條

上告乙第五號証(明治十二年九月十一日附上告村總代鈴木八十郎被上告)ハ其乙第一號証(九月十九日附上告村西澤茂作被上告村飯塚三五)ニ據レハ其實西澤茂作カ調製セシ約定書ノ如クナルモ右乙第五號証爲取換ノ後即明治十二年九月十九日上告村總代鈴木八十郎カ新潟裁判所高田支廳へ差出タル濟口証書第一項ニ(地所境界鹿繪圖面并ニ約定証爲取換地所双方共判然ト取極メ熟談濟方仕候)トアリ其第二項ニ(訴訟入費ノ義ハ去ル十一月一日)上告乙第五號証(後ハ原告人(上告)ヨリ償却仕候約前ハ右自辨ノ事)トアルヲ見レハ上告村總代人ニ於テ上告乙第五號証ノ約定ヲ承認シテ右濟口書ヲ差出シタルモノナルヲ判然ナリ然レハ原裁判所カ乙第一號証ニ一語ノ説明モ爲サス又乙第五號証成立如何ノ判定モ爲サ、リシトテ不尽不當ノ裁判ト謂フヲ得サルモノトス

第二條

上告村總代人カ乙第五號証ヲ承認セル以上ハ原被両造ニ於テ該約定ノ旨趣ニ基キ論地ノ分割ヲ明ニシ而シテ更ニ繪圖面并ニ約定書取換ハスヘキ筈ナリ然ルニ乙第五號証ニハ論地折半ノ約定ナルニ其約定ニ基クヘキ乙第三號証(明治十二年九月二十九日)ニ據リ分割スレハ論地九分餘ヲ上告村ニ與フルカ如キ不都合ヲ生セリ(上告人カ明治十四年一月二日供ニ)如斯不都合ヲ生スルモノハ全ク被上告村ノ錯誤ニ出タル充分ノ証跡ナリトス然レハ原裁判所カ錯誤ニ出タルモノト認定シタルハ相當ナリトス

但此外續々申立ル廉アレ共緊要ノ事柄ニアラセルヲ以テ一々説明セス

第三條

上告乙第三號証ハ前條辨明ノ如ク錯誤ニ出タル約定ニテ其効力ナキハ勿論ナリ然レハ乙第四號証ニテ乙第五號証ヲ取消シタルモ亦錯誤ニ原因セルモノナレハ從テ其取消ノ効力ナキモノトス己ニ其効力ナキ上ハ乙第五號証ノ効力再生スルハ自然ノ條理ナレハ原裁判所カ此理由ヲ明示セサルモ敢テ不當ト謂テ得ス又乙第四號証ノ一半ヲ有効トシ一半ヲ無効トスルヤ否ヤノ点ニ付原裁判所ガ辨明ヲ與ヘスト云モ原判文結末ニ始審裁判ノ通トアレハ別ニ辨明スルニ及ハサルモノトス

判決

前條々辨明ノ理由ニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキモノニ非ス

第二百七十七號

○貸金催促一件判文(明治十五年三月十五日上告) 明治十五年七月廿五日申渡

上告人

愛媛縣伊豫國宇摩郡蕪崎村

平民山内文衛惣理代同人長

男

山内大三郎

同縣同國同郡村松村平民

森實光五郎

被上告人

貸金催促ノ一件大阪上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

第一號証 原告文第一條ニ(該証)上告第一號(証)ヲ查閱スルニ明治十一年十二月トアル十二ノ字ハ原告申立ノ如ク一畫ヲ加ヘ以テ十二ト爲シタルモノト看認メ得ヘク)トアレ上告

第一號証中ニ十二月ト記載セラレタル十二ノ文字タル其筆勢墨色ハ勿論其位地ニ於ケルモ亦駭カ疑ヲ容ルヘキ廉ハアラサル而已ナラス却テ被上告者ノ申述スル處ニ依テ之ヲ三月ノ(二)ノ文字ナリト仮定シ視ル時ハ其筆勢位地共ニ不完全アルハ該証ヲ一覽スレハ明晰ナリ然ルニ原裁判所ハ被上告者ト引合人ナルニ宅偉助トカ架空ノ造言ニ拘泥セラレ眞正ノ文字ニ對シ不眞正ナリトノ裁判ヲ下サレタルハ不法ノ裁判ナリトノ事

第二 同判文中(抑モ其日附ノ處ニ限リ偶然燒燬シタルカ如キハ最モ怪ムヘキノミナラス該証中山内文衛トアルハ其墨色筆勢全ク該証ノ全文ト相異ナルヲ以テ之ヲ觀レハ該証ハ全ク眞正ニ成立タルモノト看認ムルヲ得ス)トアレ上告者ニ於ケル我カ義務ナキヲ証明スヘキ証憑ヲ故テ燒燬スヘキ理由アラス且ツ上告第一號証ハ始審廳ニ呈出セシ時ニ在テハ未ダ燒燬ニ至ラザリシモ當時其印影ニ付互ニ爭論アリタルニ被上告者ハ其月日ノ事ニ付一言ノ駁議ヲモセシテ後日上告者カ之ヲ燒燬セシテ僥倖トシ始テ其異議ヲ供出シタルモノナレハ不實ノ申立ト言フヘキナリ況ヤ上告參考証ノ如ク第一號証ト同年同月廿八日ニ於テ引合人三宅偉助ヨリ受領シタル証書有之ニ依レハ其事實証憑共ニ第一號証月日ノ眞正ナルハ明カナルニ於テヨヤ又該証中(山内文衛株)トアル文字ノ筆勢墨色カ其全文ト異ナリタルカ如キハ素ヨリ上告者ノ加筆ニアラスシテ最初ヨリ之レアリタル

文字ナル上ハ引合人三宅偉助ノ手ニテ記セシモノナルコトハ疑チ容ルヘキナリ且ツ上告者ニ於テ加筆シタリトノ事實証憑共ニ非サル限リハ之ヲ以テ上告者ニ不正ノ所爲アリトスルチ得ヌ加之被上告者ハ始審廳ニ於テ明治十四年三月十七日ノ口供中(本訴証券金百七拾圓ノ外ニ金百六拾圓ヲ被告ヘ貸與ヘタルコト有之候得共右二口ノ他ニ三宅偉助口入ヲ以テ被告ヘ貸金ヲ爲シタルコト無之又他ノ貸金ニテモ三宅偉助ノ口入ヲ爲シタル分モ是迄多分有之候得共同口入ノ分ニ百七拾圓ノ貸金ハ無之候)トアリ然ラハ則チ被上告者カ三宅偉助ニ對シ本件外ノ金錢取引ニ付百七拾圓ノ受領証ヲ出スノ理ハナカルヘク若シモ他金圓ノ内ニ付山シタルモノナリトスル時ハ金高何程ノ内云々ノ明文ナカルヘカラス然ルニ其記載ナキ而已ナラス被上告者ハ該証カ他事ノ取引ニ係ルトノ証憑ヲ提出セス而シテ引合人偉助カ其乙號証ヲ提出提供シタルモ該証ハ同人カ後日ノ構造ニ係ル不正ノ文字アルヲ以テ決シテ証憑トスルニ足ラサルナリ況ンヤ該証ノ印影ノ正實ナルコトハ被上告者モ亦タ争フコト能ハサルニ於テチヤ由是觀之該証ハ百七拾圓ノ元金ヲ償却シタル爲メニ三宅偉助ヨリ上告者ノ得タルモノナルコトハ明断ナリ然ルヲ原裁判所ハ上告者一號証ハ全ク成立タサルモノトシテ之レヲ棄却シ以テ本訴借金義務ノ辨濟チナシタルノ証憑ニハ相立タサルトノ裁判チ下サレタルハ不法ノ裁判ナリトノ事

第三 同判文中(原告第三號証ヲ查閱スルニ金四拾圓八拾錢ハ作督米賣捌地租區入費共上納致差引殘正御手入金ニ相定メ云々ト記載シアリ抑モ此文意タル作德米以下差引殘迄ハ全ク四拾圓八拾錢ハ作德米ヨ賣捌キ地租區入費チ差引タル金額ナルニ付之ヲ渡ス可シ

トノ意義也ト解釋スヘク)云々トアレハ決シテ然ラス抑モ被上告第三號ノ契約タル其實ハ利息制限法ニ依遵シテ成立タルモノナルヲ以テ明治十一年度ニ在テハ米壹石ニ付凡ソ八圓許ノ價額ヲ有セリ若シ此價額ニ從ヒ九石余ノ利米チ合計スレハ實ニ七拾三圓余ノ額ニ達スヘク然ルヲ其額チ減シ四拾圓八拾錢ト定メ其内ヨリ地租區入費ヲ引除ク時ハ殘余ノ金額凡ソ貳拾五六圓トナリテ利息制限法ニ附合セリ故ニ同証文中ニモ(小作人不關係)トアリテ現ニ小作米ヲ賣却スルニ非サルコトヲ明記シ又(金四拾圓八拾錢ハ作德米賣捌)トアルハ其實作德米ニ代フルニ利息金四拾圓八拾錢ヲ拂フヘキチ約シタルモノニシテ又(地租區入費共上納致差引殘正)御手入金ニ定メ)云々トアルハ上告者カ被上告者ニ拂渡スヘキ金額四拾圓余ノ内ヨリ尙ホ地租區入費ヲ引落シ其殘額チ被上告者ニ可相渡契約ナリト解釋チ與フヘキハ當然ナルニ前顯ノ如キ裁判チ下サレタルハ不法ノ裁判ナリトノ事依テ辨明并判決チ與フル左ノ如シ

辨明

第一條

上告要領第一二項ノ旨趣チ審按シ上告第一號証ヲ查檢スルニ該証面「明治十一年十二月トアル十二ノ字ハ即チ原判文說明ノ如ク正サシク三ノ一字ニ一畫ヲ加ヘ以テ十二ノ二字ニ爲シタルモノト看認メ得ヘク又其日附ノ卅日ノ二字ニ限リ之ヲ燒燬シタル如キハ蓋シ覆審ノ際之チ存セハ右十二ノ二字ノ如ク或ハ自己ノ不利トナラシキ恐レ之ヲ燒燬シタルモノナルヘシトノ推測ハ充分免レカダキモノトス又該証中「山内文衛株」トアル五字ノ筆

勢墨色カ既ニ其全文ト異ナリタルヲ判然ニシテ而シテ上告者ハ仍ホ該五字ノ文字ハ自己ノ加筆ニ非スシテ三宅偉助ノ手ニテ記載セラレタルヲ主張セントモ却テ上告者自ラ之ヲ証明セズンハアルヘカラサルニ何等ノ証明ヲ爲サレリシニ非スヤ依テ原判文第一條ノ判決ハ不當ニ非ス

但シ上告參考証及ヒ被上告者カ始審廳ニ於テ明治十四年三月十七日ノ口供云々ハ曾テ原裁判所ヘ呈供セズ又申立サル事柄ナルヲ以テ辨明ヲ與フル限ニ非ス

第二條

同要領第三項ノ旨趣ヲ審按スルニ被上告第三號証ノ契約ハ其實利息制限法ニ依遵シテ成立タルモノナリトノ申立ハ之ヲ徵スヘキノ証左ナキニヨリ果シテ然ルヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ然レハ乃チ該証記載ノ四拾圓八拾錢ハ地租區入費ヲ除去シタル殘額ナリヤ否ヤハ唯該証ノ文意ヲ考察シテ至當ノ斷案ヲ下スヨリ他ニ好方便ナカルヘシ依テ該証ノ文意ヲ審查スルニ其「四拾圓八拾錢云々ヨリ御手入金ニ定相渡シ」ト迄ノ一段ノ解釋ハ即チ原判文說明ノ如クナルノミナラス仍ホ上告者カ當時ノ米價ニ從ヒ利米九石余ノ價ヲ積算シタル七拾三圓余ノ額ニ參照スルモ右四拾圓八拾錢ハ即チ貢租區入費ヲ除去シタル殘額ナルヲ一班ヲ知ルニ足レリ如何トナレハ該第三號証ハ米價ノ高低及ヒ小作人ヨリ小作米ヲ納不納スルニ拘ハラズ年々一定ノ利米金ヲ交付スル請負ノ契約ナルカ故ニ右當時積算ノ利米金額七拾三圓ヨリ貢租區入費拾四圓余(上告者ノ申立ニ依テ算出ス)ヲ除キ仍ホ拾八圓許ヲ低價ニ見積リタルハ相當ナリト推認シ得ラルレハナリ依テ原判文第二條ノ判決ハ不當ニ非ラス

判決

右辨明ノ如クナル依ニリ大坂上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ者ナリ
第二百七十八號

○賄地取戻一件判文(明治十年五月廿七日上告)
(明治十五年七月廿五日申渡)

山梨縣甲斐國東山梨郡春日
居村平民

上告人

田 中 宇 一 郎

代言人

東京府本郷區東竹町二十五
番地寄留新瀧縣平民
大 矢 早 利
山梨縣甲斐國山梨郡春日居
村平民

被上告人

田 中 榮 次 郎

賄地取戻一件東京控訴裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ
本件ハ弘化四年被上告者先代カ賄預リタル亡籍上告者田中家ノ所有地石高ノ九石七斗八升四夕ナリシヲハ甲第四號証嘉永四年ノ所有地石高ノ九石七斗八升四夕ナルト甲第三號証嘉永四年ノ年貢諸費額ト甲第二號証被上告先代カ仕拂ヒタル嘉永四年ノ年貢辻ト符合スルノミナラス甲第二號証ノ作徳米及ヒ年貢辻ハ高九石七斗八升四夕ノ入額及ヒ貢租諸

簿上ニ質入ノ記載ナク貢租諸役等テ上告者ノ名義ヲ以テ勤メタリト云モ個ハ原裁判所判旨ノ通り未タ之ヲ以テ乙第一號証ハ真正ノ証ト認定スルヲ得サルナリ加之上告者ハ明治八年相續ノ際被上告先代へ賄預ケ中ノ計筭ヲ爲シ之ヲ授受シタルコトハ被上告乙第四號証ニ明ラカナリ又田畑舊高二石二斗一升六合九夕改正反別二反四畝十八歩ヲ受取タルコトハ上告者カ原裁判所へノ上申書ニ明ラカナレハ明治八年中其財産ノ授受ヲ完了シタルモノト推知スヘシ如何トナレハ當時上告者ニ於テハ被上告者ヨリ受取ルヘキ財産ニ付テハ詳細ノ取調ヲ爲シタル上之ヲ受取ルヘキハ固ヨリ當然ノ事ナレハナリ故ニ上告者カ今ニ至テ本訴論地ノ有無ヲ知ラサリシトノ言ハ容易ク信スルヲ得サルモノナリ夫レ如此キ理由ナルヲ以テ原裁判所カ乙第一號証ヲ有効ノモノナリト認メ以テ乙第一號証ハ流地ノ契約ナルニ付今更被告(被上告者)ニ對シ取戻スヲ得サルモノトス裁判シタルハ不當ノ裁判ニアラス

右ノ次第ナルヲ以テ東京控訴裁判所ノ裁判ハ破毀ス可キ理由ナキモノナリ
第二百七十九號

○地券証取戻一件大阪上等裁判所
裁判不法上告ノ判文(明治十四年八月二日上告
明治十五年七月廿七日申渡)

兵庫縣播磨國明石郡別府村
平民池田徳太郎後見人同郡
伊吹村平民

上告人
右代言人

三 浦 伊 三 吉
今 井 角 太 郎

被上告人
右代言人

兵庫縣播磨國明石郡別府村
平民
今 井 ツ 子
齋 藤 孝 治

上告要領

一上告第一號証ハ地券書換願書ニシテ上告亡父長兵衛被上告養子藤之吉連署シ隣村戸長及ヒ區長ニ於テ双方ノ情實取亂シ與書ナシタル上兵庫縣廳へ差出シタル者ナレハ真正ニ賣買ヲ了シタルハ明確ナリ若シモ該証ハ真正ノモノト認定ナシカタキモノナレハ宜シク之レカ反証ナカルヘカラサルコトアラスヤ然ルニ大坂上等裁判所ニ於テハ被上告者カ真正ノ口頭ナル苦情ヲ採用シテ「原告(上告)第一號証ハ果シテ真正ノモノト認定シ難ク」ト裁判シ又上告第三四五號証ハ被上告者カ上告者へ小作米ヲ差入タル証ニシテ被上告第四號証ト符合スルカ如シ即チ本訴地所チ上告者へ賣却シタルコト承認シアルノ事迹ナリ被上告者ニ於テ之レハ公租ヲ納メタルナリト申立レモ苟クモ公租ナレハ之ヲ其納ム可キ所ニ納メ而シテ其上納証書ノアル可キ筈ナルニ故ラニ中田利一郎ニ向テ差出シタルハ果シテ何ノ理由ナルチ該地ノ輾轉中田利一郎ノ手ニ賣渡ス可キ約束アルコトヲ承知シテ小作米ヲ差入レタルヤ明クシ又強テ被上告申立ノ如ク之ヲ公租ト看做スモ上告第二號ノ地券証ノ地價

ニ據リ之レカ百分ノ二歩五厘ヲ算スレハ僅カニ九圓三拾六錢貳厘ニ出テサルニ被上告第一號証ニ據リ壹俵四圓三拾五錢ノ價アル石米ヲ六俵相納メタルハ何ソヤ其算額ノ符合セサル点ニ付テ考フルモ貢租ニアラスシテ小作米ナルヲ明了ナリ又上告第六號乃至第十一號証ニ於ケルモ被上告者カ論地ヲ上告者ニ賣却シタルヲ承諾シアルヲ証明スルニ足レリ如何トナレハ小作者即チ今井久市酒田又市ニ於テモ實際賣買ナシタルヲ被上告者ニ糾サ、ル以上ハ輕々ニ小作証ヲ差入レ小作米ヲ差入ル、ヲ爲ス可ケンヤ又上告第十二三號証ハ上告者カ公租ヲ納メ來リタルノ証書ナリ己ニ地券ノ上告者名前ニ改マリアル以上ハ上告者ノ納税トナリアルハ至當ノ理ナレハ別ニ論ス可キ者アラサレハ被上告者ハ何ソ安ンシテ三ヶ年間納税セサリシヤ然ルチ大坂上等裁判所ニ於テ(原告第二號乃至第十一號証ハ総テ本訴ノ地所ヲ買得シタルノ確証ト爲スニ足ラサルモノトス)ト裁判セラレタルハ不法ナリトノ

一大坂上等裁判所ニ於テ(原被告間ニ於テ更ニ改契約ノ成立タル情况毫無之却テ最初ノ書入証依然原告ノ手ニ存在セシノミナラス云々)ト辨明セラレタレハ賣渡証ナル者ハ畢竟地券書換チ爲シテ公然之ヲ所有スルニ至ル迄ノ手續ナレハ既ニ連署ノ上地券名前チ改メタル後ニ至テ賣渡証ナケレハ逆契約更改セスト云フヲ得ス况ンヤ該賣渡証ハ必ス上告手元ニ在ル可ク思考スレハ父長兵衛没シテ之ヲ質スニ由ナシ又被上告者ノ前書入証書ハ賣買ノ際已ニ塗抹ノ故紙トナリタル者ナレハ今猶ホ上告者ノ手許ニ存在シアリトテ本訴ノ權利ニ於テ毫モ影響チ及ホスヘキモノニ非ス又大坂上等裁判所ニ於テ(况ンヤ

原告ノ父亡長兵衛ナルモノハ被告參考証第十號乃至第十二號証ノ如ク長在職中往々騙瞞ノ所爲アリシニ由テ視レハ原告第一號証ハ果シテ真正ノモノト認定シ難ク)ト裁判セラレタリ被上告參考証第十二三號証ノ裁判ハ甚タ不法ト思量スレハ如何セン當時事故ニ支ヘラレ止ムヲ得ス上告期限ヲ經過スルニ至レリ決シテ心服シタル者ニアラサルナリ况ンヤ右參考書ヲ一讀スルモ騙瞞ノ廉ハ毫モアラサルナリ依リニ騙瞞ノコアリシモノトスルモ他ノ件ヲ引テ本件ニ及ホシ本件ノ訴權ヲ害ス可キ謂ハ万々アル可カラスト信ス若シモ大阪上等裁判所ノ裁判ノ如ク漫リニ之ヲ引テ他件ニ及ホシ云々スルニ至テハ之レカ子孫タル者一日モ其安寧ヲ保ツコト得サルニ至ラン又大坂上等裁判所ニ於テ(斯、ル廉價ヲ以テ貴重ナル財産ノ所有權ヲ容易ニ移轉スヘキ筈アル可ラス)ト裁判セラレタレハ凡ソ地券面ノ代價ト實際賣價ト相違スルコトアルハ當時ノ習弊ニ殊ニ上告者ハ曩ニ被上告ノ頼母子講金ヲ引請ケ其他貸金等モアリタルニ付強チニ券面代價ノミ以テ賣買シタル者トハ判シ難カルヘン好シヤ券面代價ノ賣買ナリト看做スモ恩惠上ヨリ低價ニ賣買スル等ノコトモ往々之レアリ加之政府ヨリ定メテラレタル地價ヲ以テ賣買ヨナシタルモノナレハ法律上之レヲ低價ト云フヲ得可カラサルモノナルヘン然ルヲ前書ノ如ク裁判セラレタルハ不法ナリトノ

右ノ理由ナルニ付明治十四年五月廿日大坂上等裁判所ニ於テ本訴地券証取戻一件ニ對シ申渡シヲ爲シタル終決裁判ハ破毀セラレシコトヲ請願ス

答辯ノ要領

元來本訴所争ノ地所ハ嘗テ明治八年八月八日被上告者前戸主今井藤之吉ヨリ上告者實父長兵衛ニ金七拾七圓借用金ノ書入質低當トシテ差入タリ爾後利子ノ追々累加スルアルニ仍リ論地ト俱ニ書入質低當タル三筆ノ地所ヲ上告者實父亡長兵衛ノ承諾上他人ニ賣渡シ其代金中ヨリ被上告第一號証ノ如ク金貳拾九圓ヲ明治九年十二月二十二日ニ相渡シ第二號乃至第四號証ノ如ク石代米即チ貢租米ヲモ上告者亡父長兵衛カ戸長在職中同人ニ對シ爲替ヲ以テ納メ來リタルヲテ証スヘシ故ニ被上告者ハ論地ニ對スル處ノ權利ヲ得及ヒ義務ヲ盡シテ全ク所有者ニ非サレハ爲メテ得ヘカラサルノ所爲チ行ヒ來タリ故ニ論地ノ所有者ハ事實被上告者ニ在ルヤ瞭然タリ然ルニ上告者ニ於テハ此事實アルニ苦ソテ論地ハ被上告者ニ小作ヲ爲サシメタルモノナリト云フト雖モ凡ソ人ヲシテ自己ノ地所ニ小作ヲ爲サシムルハ必ス其契約即チ入附米等ノ契約ナクンハアル可カラス實ニ上告者ハ自己ノ親戚等ヨリモ尙ホ且上告者第六號証乃至第十一號証ノ如キ証書ヲ得タリ况ソヤ全ク他人タル被上告者ニ對シ果シテ小作ヲ爲サシメタリトセハ必ス其契約証書ヲ取ラサルト云フノ事實ナキニ於テチヤ之レ即チ論地ハ被上告者ノ所有ニシテ決シテ上告者ニ對シ賣渡シノ契約ヲ爲シタルヲナキノ一証トス

上告者ニ於テ主眼トスルノ論點ハ上告第一號証ハ真正ニシテ且賣買ノ証據ナリト云フコ在リ然レニ該第一號証ハ只タ地券書替ヲ請フノ願書ニシテ賣渡シノ契約書ニ非ラス凡不動産ノ賣買ハ先ツ賣渡シノ証書ヲ記シ之レニ戸長ノ公証ヲ經テ以テ賣買ノ契約ヲ結了シ而シテ後初メテ地券書替ヲ請願スルモノナリ然ルニ上告者ニハ此賣渡シノ証書ナキノミ

ナラス戸長役場ニモ此公証ヲ爲シタリト云フノ証據アルヲナシ

加之ス該第一號証ハ真正ノ成立アルモノニ非ラス其故ハ明治十年ヨリ同十一年中地租改正アルノ際ハ戸長役場ニ於テ屢々印形ノ必要アルカ故ニ僻隅質朴ノ民ハ自己ノ印影ヲ戸長役場ニ預ケ置クノ慣例アルヲ獨リ明石郡別府村ノ一地方ノミニ止マラサリシナリ故ニ上告者亡父長兵衛ハ此際ニ乘シ兼テ書入質トシテ地券証ノ在ルアルヲ奇貨ト爲シ該第一號証ヲ作爲シテ地券書替ヘ願ヲ爲シタルヤ明ケシ尙ホ此事實ヲ証セシニ初審廳ニ於テ明石郡別府村用係リ松村順司ノ証言中ニ地券書替願ハ長兵衛ノ依頼ニ付與印仕候トアリ故ニ此願書ニ與印ヲ請フノ時ハ長兵衛ノミニ依頼ニシテ被上告者前戸主藤之吉ハ之レニ立合ワサリシナリ又同人ノ証言ニ明治十二年十二月頃右長兵衛相續人德太郎ヨリ大倉町山田直七ヘ地所書入致シ度願出ルニ仍リ取調候處今井藤之吉持ノ地所ナルヲ以テ如何ノ譯カ相尋候處此通最早自分ヘ賣渡ノ地所ナリトテ地券ヲ差出シ候云々トアリ故ニ地券書替ヘ願ヒテ爲シタルハ明治十一年二月ナリシモ明治十二年十二月迄ハ只タ地券ノ書キ替ヘアリシノミニシテ戸長役場ノ帳記ヲ司ルハ亡長兵衛ノ職務ナレハ之レヲ書替ユルハ誠ニ容易ノ事ナルコ仍リ殊更ニ之レヲ等閑ニ附シ成丈ケ此地券書替ヘノ事ヲ他ニ知ラシメサリシニ在リ誠ニ巧ミノ所爲ト云フヘキナリ是レ即チ上告者第一號証ハ賣買ノ契約書ニ非ラス又真正ノ成立ニ非ラサルト云フ所以ナリ

上告者ハ第三號証乃至第十三號証ヲ掲出シテ被上告者ニ對シテ所有權ヲ証スヘキ証據ナリト云フト雖モ凡ソ証據ナルモノハ相手方ヨリ得ル所ノモノニ非サレハ証據トナスコト

得サレハ道理上ノ然ルヘキ處ナリ今上告者カ出ス處ノ証據書ハ凡テ此原則ニ適セサルノミナラス第三號証乃至第四號証ノ如キハ却テ前文ニ述ヘタルカ如ク藤之吉ヨリ爲換テ以テ亡長兵衛ニ對シ租稅ヲ納メタルヲ証シ得ヘキナリ

又第十號証及ヒ十一號証ノ如キハ上告者ノ親戚ヨリ出シタル處ノ証書ニシテ素トヨリ被上告者ノ關リ知ルモノニハ非ラス却テ此証ニ就テ見レハ小作米ヲ名ツケ入附米ト稱スルノ事實ヲ証シ得ヘシ然ルニ上告者ニ於テハ之レヲ是レ察セス藤之吉ヨリ石代米即チ貢租ヲ受取リシモ尙ホ十號証及ヒ十一號証ト同シク小作米ヲ受取リシトハ誠ニ不當ノ陳辨ト云ワスシテ何ソシヤ是即チ上告者第三號証以下ノ諸証據書ハ被上告者ニ對シテ証據ノ効カアルモノニ非ラスト云フ所以ナリ

上告者ニ於テハ本訴所争ノ六筆ノ地所買得金ハ僅カニ金五拾八圓ナリト自供セリ然ルニ其實價ハ明治十一年即チ賣買シタルト云フ時ノ詳價ニ仍ルモ金三百貳拾壹圓余ノ價アルナレハ其賣買代價ハ實價ヨリ低キ一金貳百五拾圓余ト云フヘシ故ニ上告者自ラモ亦此不當ニ感シテ(上告者ハ券面代價ノミヲ以テ賣買シタル者ト判シ難シト爲シ十四年二月八日被上告者ノ口供ヲ以テ論証ト爲セリ然レ被上告者ハ此價ト爲スヘキ金圓ヲ受取リシト云フノ供陳ヲ爲シタルヲ却テ同月同日上告者ニ於テ爲シタルノ口供第十六項ヲ見ルニ自分義頼母子掛金ヲ引請タルモ地所買得金ノ中ニ含ム旨段々申立候得共是ハ余リ五拾八圓ニテハ當時ノ相場ニ比シ本訴ノ地所テ低價ニ買居候故一時掛金モ含ミタルヲカトモ思ヒ申立タル義ニテ右答辨書ニ申立タル通金五拾八圓切リニテ本訴ノ地所ヲ買フタル

ニ有之候由テ掛金ノ義ハ取消申候トアルニ仍リテ見ルモ上告者カ云フ所ノ券面代價ノミヲ以テ賣買シタルモノト判シ難シト云フノ不當ヲ知ルニ足ルヘキナリ又上告者ハ恩惠ヲ以テ賣買スル等ノコトモアリト云フト雖モ果シテ被上告者ヨリ恩惠ヲ受ケタリトセハ其証據ヲ示スヘシ決シテ其証ナキノミナラス被上告者ハ上告者ノ如キ富アル者ニ非ラスノ漸ク日々ノ生活ヲ營ムヲ得ルアルノミ故ニ被上告者ハ謂レナシ富有ノ上告者ニ對シテ金貳百貳拾圓余ノ贈與ヲ爲スカ如キハ万々アル可カラサル事實トス

又上告者ニ於テハ大坂控訴裁判所ノ判定文中ニ斯ル廉價ヲ以テ貴重ナル財産ノ所有權ヲ容易ニ移轉スヘキ筈アル可カラストノ判定ハ愈以テ不法ト爲シ佛國民法ニハ云々トアリト雖モ是レハ之レ契約ハ自由ニ任スノ原則ニ背クトセリ誠ニ其事ノ如ク人民ノ自由ニ結ヒタルノ契約ハ法官モ得テ之レヲ沮害スルコトヲ得サレモ重惡切迫ノ原因アル即チ本訴ノ如ク究困ナル賣主ヲ貪慾ナル買主ニ對シ保護スルカ如キニ至リテハ素ヨリ彼ノ原則ハ徒ラニ之レヲ墨守スヘキニ非ス其故如何トナレハ元來土地ノ如キハ人ノ所有ト爲スヘキ財産中最モ貴重ノモノニシテ之レヲ人ニ賣リ渡ス場合ヲ想像セハ必ス貧困ニシテ他ニ金圓ヲ得ルノ道ナク止ヲ得サルニ出ツルノ所爲ト爲サ、ルヲ得ス故ニ其之レヲ賣ラント欲スルキハ必ス高價ノ買主ヲ需ムルハ普通ノ情狀ト謂ツヘシ然ルニ其實際賣買ノ代價若シ實價三分ノ一或ハ四分ノ一ナルキハ能力ナキノ賣主ニ非ラサレハ必ス強迫ヲ受ケ或ハ買主ノ爲メニ詐僞セラレテ之レカ賣買ヲ爲シタルヘシトノ思料ヲ人ニ起サシムルハ即チ自然ノ定理トス之レ即チ契約ハ自由ニ任スト云フ原則ニ取除ケアル所以ナリ今大坂

控訴裁判所ニ於テ斯、ル廉價ヲ以テ貴重ナル財産ノ所有權ヲ移轉スヘキ等ナシト判定セ
ラレタルモ亦此理由ニ素キシノミナラス上告者ニ對シテ本訴六筆ノ地所ヲ賣渡スヘシト
云フノ契約ヲ結ヒタルコトナキニ仍テ判定ヲ降サレタルモノナレハ此判定ニ對シテ不法ト
爲スハ誠ニ不當ノ極ト云フ可ナリ

上告ノ旨趣ハ必竟上告第一號証ノアル有リテ且買得代價ハ金五拾八圓ナレモ自由ニ契約
ヲ結ヒテ買得シタルモノナレハ決シテ不當ノ賣買ニ非ラス又此賣買ハ第三號証乃至第十
二號証ニ於テ被上告者モ賣却ノコトハ承諾シアルモノナリ然ルニ大坂控訴裁判所ハ不法ノ
推定ニ以テ判決ヲ降サレタルハ不服ナリト云フニ在リ然リト雖モ前文ニ於テ縷々陳述ス
ル如ク論地ハ現ニ被上告者ニ於テ所有シ貢租米ヲモ納メ又論地買得ノ代價ハ金五拾八圓
ナリト云フト雖モ其實價ハ上告者カ自陳スル處ニ仍ルモ尙ホ金百圓拾三圓ノ價アリ況ン
ヤ裁判所ヨリ命シタル評價人評價スル處ハ金三百貳拾壹圓余ナルニ於テオヤ又上告者ハ
自由ニ契約ヲ結ヒテ賣買セシモノ、如ク陳述スルモ論地賣買ノ契約書ナク只ダ上告者第
一號証ニ前戶主藤之吉ノ印影アリト雖モ該証ハ地券書換ノ願書ニシテ賣買ノ契約書ニ非
ラス且又該証ハ真正ニ成立タルモノニ非ラサルナリ又上告者實父亡長兵衛ハ兵衛長在職中
往々騙瞞ノ所爲アリシコトハ控訴裁判所ニ奉呈シタル參考証十號乃至第十二號証ノ如ク明
カナリ

故ニ大坂控訴裁判所ニ於テ上告者ハ本訴地所ノ所有權ヲ得タル証跡一モ之ナク云々該地
ハ正ク所有權ノ移轉セシモノニ非ザルナリト判決セラレタルハ以上述ヘタルカ如キ誠ニ

能ク詳明符合シタルノ事實ヲ採リテ且大切ニ思料セラレタルノ判定ナレハ決シテ不法ノ
判決ニハ非ラサルナリ
被上告者ノ口供

論地ハ從來ヨリ酒田又市今田久市ノ兩名ヘ小作致サセタリ然ルコト上告者ハ之ヲ自己ヨリ
小作爲致タルカ如ク右兩名ヨリ夫々其証書ヲ徵収シ之ヲ證明スレモ其証書ハ何レモ本件
起訴后ニ成立タルモノナレハ固ヨリ証據トナルヘキモノニアラス實際ハ被上告者ヨリ小
作爲致タルニ相違ナキモノナリ

但シ被上告者ヨリ小作爲致タル其証據ハ無之ナリ又實際小作米ハ年々徵収シ來リタル
モ是亦其証據ハ之レナキナリ

地券面ニ據レハ論地ニ對スル貢租ハ九圓三拾六錢貳厘ニ當ルヘキヲ被上告第四號証即チ
論地ノ貢租ヲ納メタリト証スル証據ニ依レハ過剩ニ上納セシカ如シト雖モ右ハ豫テ被上
告者カ上告者ヨリ借用セシ金員ニ對シ其貢租ヲ差引キタル殘餘ノ部分ハ之レカ返弁ニ充
タルモノニ付斯ク過剩ニ相成タルモノナリ

答弁書中ニ論地ハ今現ニ被上告者ニ於テ所有シ且ツ之カ耕耘ヲモ爲シ居ル云々記載シタ
レモ右ハ全ク間違ヒコト上文ニ申上ケタル通り從來ヨリ酒田又市今田久市ノ兩名ニ小作
イダサセ且ツ本件ニ付糞ニ終審裁判ヲ受ケ此裁判ノ力ニ依リ論地ハ被上告者ヘ取戻シタ
レモ直チニ石川源内ナルモノヘ賣却ナシタル義ナリ

被上告者カ論地ノ貢租ヲ上納セシト證明スル証據物ハ即チ被上告第二三四號証ニ有之ナ

右第二三四號証ハ即チ明治十一年ノ貢租ヲ納メタル請取証ニシテ明治十三年ハ既ニ本件ノ詳訟起リタルヲ以テ被上告者カ之ヲ納メントスルモ既ニ上告者ニ於テ上納シタル趣ニテ之ヲ請取リ吳レサリシナリ

右第二三四號証ニ記名アル山田屋源兵衛中田利一郎ナルモノハ被上告者カ知己ノモノニシテ即チ被上告者カ上納スヘキ米額ヲ同人ニ於テ買取リ其買取セシ金額ヲ以テ同人等ハ被上告者ノ代理トナリ上告者ヘ貢租ヲ上納シタルモノナリ其上告者ヘ貢租ヲ相渡シタルハ上告者ハ當時戸長役ヲ相勤メ居リタレハナリ

辨明

原裁判所カ上告第一號証賣地券書換願書ハ不真正ノモノト爲シ其第二號乃至第十三號証ハ論地ヲ買付セシ証左ニ難相立ト裁判セシハ第一被上告參考第一號書入証ノ契約ハ上告第一號証ノ賣買ニ更改セシ情尤毫モ無之却テ其書入証ノ依然被上告者ノ手ニ存在スルト第二論地ヲ賣買セシト云フ代價ハ殆ノト其實價ノ三分一ニ居ルノミナラス上告者ノ亡父長兵衛ハ曾テ戸長奉職中往々騙瞞ノ所爲アリタリト二個ノ点ニ因據セシニ外ナラサルモノトス

上告者カ提供スル証書ヲ通覽スルニ其第一號証ハ上告者ノ亡父長兵衛ト被上告者ノ先代藤之吉ト連署ノ上論地ノ券狀書換ヲ其筋ヘ請願セシ書面ニテ遂ニ此書面ニ據リ第二號証ノ券狀ヲ上告者ヘ附與セラレ第六號乃至第十一號証ノ如ク論地ハ上告者ヨリ今田久市

酒田又市ノ兩名ヘ小作爲サシメ第十二號第十三號証ノ通り論地ノ貢租ハ上告者ニ於テ負擔シアレハ假ヒ其以前ナル被上告參考第一號書入証ノ今猶ホ被上告者カ手裏ニ存在シアルモ又論地ノ賣買代價ハ其實價ノ三分一ニ居ルモ又亡父長兵衛ハ騙瞞ノ所爲アリシ者トスルモ強チ論地ヲ上告者ヘ賣却セシ情况毫モ之レナシト斷言スルヲ得ヘカラサルナリ被上告ニ於テハ上告第一號証ハ全ク上告者ノ亡父長兵衛カ偽造ニ係リタルモノニシテ此偽造ノ書面ニ因リ第二號証ノ地券ヲ得タルモノナレハ二ツナカラ無効モノナリト云フモ之カ明証アルニアラス又論地ヲ今田久市酒田又市ノ兩名ヘ小作爲サシメタルハ被上告者ニシテ上告者ニアラサルナリト云フモ上告者ハ上告第六號証乃至第十一號証ヲ掲ク右兩名ハ上告者ノ小作人ナリト証明セリ然ルニ被上告者ハ之レカ反証ヲ舉示スルヲ得ス又被上告者ハ其第二號乃至第四號証ヲ以テ論地ノ貢租ヲ上納セリト証明スレ共抑モ地券面ニ據レハ論地ノ貢租ハ金九圓三拾六錢貳厘ニ當ルヘキハ被上告者モ亦自認スル所ナルニ非スヤ然ルニ右第二三四號証ハ七圓ノ上納金ニテ貳圓三拾六錢貳厘ノ不足ヲ生シ又第四號証ハ貳拾六圓拾錢ノ上納金ニテ拾六圓七拾三錢八厘ノ過剩ヲ生スル等之ヲ要スルニ到底論地ノ貢租トハ認メ難キモノトス

好シヤ上告第一號証ハ上告者ノ亡父長兵衛カ偽造ニ係リ上告第二號証ノ地券ト共ニ無効ニ歸スルモノトスルモ事實論地ハ上告者ヘ賣却セシモノニアラストモ第一論地ヲ上告者ニ於テ今田久市酒田又市ノ兩名ヘ小作爲サシメタルヲ被上告者カ之ヲ黙過ナシタルハ何ソヤ第二論地ノ貢租ハ上告者ニ於テ負擔シ被上告者ノ辨納セサルハ何ソヤ此事實ハ論

地ノ果シテ賣却ニ係リタルモノナリヤ否ヲ判スルノ一大緊要点ニシテ審明チ欠クヘカラサルモノトス

然ルチ原裁判所ハ此小作ヲ爲サシメタルコト及ヒ貢租ヲ納メタルトノ要点ニ對シテハ(原告上)第六號乃至第十一號証ハ總テ本訴ノ地所ヲ賣得シタルノ確証ト爲スニ足ラサルモノトス(略)第十二三號証ノ如ク縱令ヒ原告(上)其地ノ義務ヲ行ヒ來リタルモノニモセヨ該地ハ正ク所有權ノ移轉セシ者ニ非サルコト因リ云々ト申渡シタルハ尽スヘキ審理ヲ尽サハル不法ノ裁判ナリトス

判決

右辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年五月廿日大坂上等裁判所ニ於テ本訴地券取戻一件ニ對シ申渡シタル終審裁判ヲ破毀シ之ヲ廣島控訴裁判所ヘ移スニ依リ同裁判所ノ裁判ヲ受クヘキモノナリ

但シ本件上告ニ係ル費用ハ被上告者ノ負擔タルヘシ
第二百八十號

○貸金催促一件判文(明治十五年五月三日上告
明治十五年七月廿八日申渡)

上告人

兵庫縣神戸區多門通三丁目
三十七番地金井源吉方寄留
大坂府南區西櫓町二番地平
民菊水ハノ代人東京府下谷

被上告人

區練堀町五拾二番地平民
相 良 榮 藏
大坂府北區中之島壹丁目四
番地主族
若 原 嘉 直
同府南區新瓦屋町二拾七番
地平民
富 岡 佐 助

同

貸金催促一件大坂控訴裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトスル上告ノ要領左ノ如シ
第壹 大坂始審裁判所ニ於テ被上告者ノ詞訟ハ當時上告者ノ旅行中ナルヲ以テ訴訟定規ニ違背スルニ依リ却下セラレタルヲ被上告者ハ無法ニ出訴セシモノナルニ原裁判所ハ之ヲ採用シ且ツ宿所違ヒノ裁判ヲ下サレタルハ不法ナリトノ事

第二 上告者ニ於テハ上告第壹號証ノ如ク本訴借金ニ對シ被上告者へ入金シアルコトハ辨駁書ヲ以テ説明セシニ原裁判所ハ何等ノ審理モナク又説明モナク裁判ヲ與ランシハ不法ナリトノ事

第三 代人阿蘇波市兵衛ノ口供取消上願スルモ原裁判所ハ其事由無之ヲ以テ採用セスト裁判ヲ下サレタルハ不法ナリトノ事

依テ辨明并ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

上告要領第壹項ノ如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ上告第四號証ハ上告者ヨリ本籍戸長ヘ向ケ一時旅行ノ旨ヲ申送リタル書面ナルノミナラス其日時ハ明治十五年一月廿日ニシテ被上告者カ本件起訴ノ日即チ明治十五年一月十六日ノ後ニ係レハ本訴ニ關シ其効ナキハ勿論ナリ又其第五號証ハ上告者カ右戸長ニ宛タル寄留届書ニシテ上告者ハ之ヲ該戸長ノ雇人ヘ渡シ置キタリト申立ルモ之ヲ受取ラスト云ヒ且ツ被上告第四號証戸長ノ保証ニ依リ當時上告者カ被上告者ヨリ本件起訴ノ後即チ明治十五年一月廿五日迄ハ他管ヘ寄留ノコヲ所役場ヘ届出タルコトナキヤ明カナリ因テ原裁判所ハ被上告者ノ訴旨ヲ採用シ「縱令神戸表ニ居住スルモ一時ノ他行ニ屬スルモノナレハ原告(被上告者)カ本籍管轄裁判所即チ大坂始審裁判所ニ出訴セシハ至當ナリ」ト判決セシハ固ヨリ當然ナリトス又上告者ハ原裁判所ノ判文ニ上告者ノ本籍ノミヲ記載シテ寄留籍ヲ掲ケサリシハ不當ナリト申立ルト雖モ這ハ本案ノ曲直ニ影響ナキ事柄ナルヲ以テ特ニ之カ辨明ヲ與ヘス

第二條

同要領第二項ノ旨趣ヲ審按シ原書類ヲ調査スルニ被上告者ノ原裁判所ヘ提出シタル理由上申書中ニ掲載セル上告者ヨリ被上告者ヘ宛差入タル明治十四年十一月三十日附ノ約定証書初項但書ニ「西樽町二番地ニ有之拙者買得ノ家屋其儘抵當ノ利子ナリ」ト明記シ本文ニ「過般來ノ利子金三拾七圓八拾錢延滞ニ付右ハ當月迄ニ御渡可申契約ノ處云々(中)右

ノ内ハ本日金拾五圓相渡候ニ付殘金貳拾貳圓八拾錢ハ來ル十二月五日限無相違返辨可仕云々」トアリ而シテ上告第壹號証第壹項ニハ「一金三拾七圓八拾錢也右ハ當已ノ十一月迄ノ利子滯金并外約定金トモ合計右ノ金員本日正ニ受取候也」其第二項ニハ「一金貳拾二圓也右入金本日正ニ受取候也但當已ノ五月迄ノ利子云々」其第三項ニハ「一金九圓二錢五厘也右ノ金子正ニ請取申候也」トノミアリテ別ニ何ノ利子何ノ金子タルコト明記セス且ツ何レモ被上告者ノ一人ナル若原嘉直又ハ同人代某等ノ記名アリト雖モ單ニ奥村小二郎宛ナレハ該第壹號証ハ果シテ本訴ノ利子請取証ト看認メ難キノミナラス其第二三項ノ日附ハ一八十四年己六月九日一八十四年己四月三十日ニシテ孰レモ前上被上告者カ呈供シタル明治十四年十一月三十日附約定証書ノ以前ニ係レハ本訴ニ關シ勿論無効ノモノナリトス又其第壹項日付ノ如キハ十四年十一月三十一日ナレハ十一月ニハ三十一日ナケレハ蓋三十日ノ誤ナラン果シテ同月三十日トスレハ則チ該約定証書成立ノ同日ナレハ亦之ヲ以テ本訴利子金ヲ辨償シタルモノト認メ難シ何トナレハ同日即チ十四年十一月三十日附ノ約定証書ヲ要シタル者カ之ニ反シ同日復タ利金ヲ辨償スルノ謂ハレナケレハナリ夫レ上告第一號証ノ本訴ニ効用ナキヲ如此然リ故ニ原裁判所ハ之ヲ採用セス隨テ何等ノ説明モ附セサリシモノニシテ審理不盡ナルニ非ス

第三條

同要領第三項ノ旨趣ヲ審按スルニ凡ソ自認ヲ取消サンニハ之ニ對スル相當ノ理由ナクハアル可ラス然ルニ上告者カ原裁判所ニナシタル口供取消願ノ如キハ一モ之ヲ取消スヘ

キ相當ノ理由ヲ具ヘタルコトナケルハ原裁判所ノ之ヲ採用セザリシハ固ヨリ當然ノ事ナリトス但上告者ハ明治十五年三月廿四日原裁判所ニ於テノ口供ニ被上告第壹號乃至第五號証ハ差入タルニ相違ナシトアレド被上告第四五號証ハ上告者ヨリ差入ルヘキモノニ非ス云々ト申立レド原書類ヲ閱スルニ該口供中ニハ(原告(被告)提供スル第壹號乃至第三號証証ハ被告(原告)本人「ムメ」ヨリ差入レタルニ相違ナシ云々)トアリテ上告者カ申立ノ如ク第壹號乃至第五號云々ト記載シタルコトナシ

判決

右辨明ノ如クナルニ依リ大坂控訴裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ者ナリ
第二百八十一號

○地券名受改正一件判文(明治十五年三月廿五日上告)
明治十五年七月廿九日申渡)

上告人

山形縣羽前國南村山郡平清
水村總代同村平民

佐藤寅吉
丹羽清之進

東京府芝區南佐久間町二丁

目平民

田村 訥

右代言人

山形縣羽前國南村山郡

被上告人

前田村

地券名受改正ノ訴訟宮城控訴裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ破毀ヲ要ムル上告ノ主点ハ左ノ如シ

第一條

原裁判所カ據テ以テ論地ハ被上告ノ所有ナリト判決セラレタルハ專ラ被上告乙第一號証ニ在リ然ルニ此乙第一號証ナルモノハ被上告カ後日ノ作爲ニ出タル不正ノ書面ナルコトハ一目掩フヘカラサルモノアリ今其証ヲ舉ケンニ

第一 被上告カ論地ノ地券願即チ別冊第九號甲印ニ(平清水ヨリ讓受ノ証書ハ明治二年當村渡邊長七亡父勤役ノ砌同人小家ヨリ出火ノ節居室ヨリ諸道具其外書類函ハ紛失致シ云々)トアルコト

第二 初審裁判ニ明記セラレタル如ク被上告カ初審廳ヘノ申立ニ(往古原告村(上告村)ヨリ讓受タル其証書ハ明治二年中火災ニテ焼失シタルハ今更之レヨ證明スル能ハサルニ云々)トアルコト

第三 被上告カ控訴狀冒頭ニ(控訴原告カ讓受ノ証書ヲ紛失シタルニ乘シ妄ニ論地大林山ハ實地タリシ旨ヲ主張シ云々)トアルコト

第四 被上告カ明治十四年十二月十三日付辨駁書第三條中ニ(被告等(上告村)ノ祖先ハ論地ヲ原告(被上告)ヘ贈遺シタルモノナレハ即チ被告ハ義務者ニシテ權利者ニアラサレハコソ証書ハ原告獨リ之レヲ受領シ現ニ明治二年迄ハ之レヲ所持シ居リタリ噫被告

ハ原告カ讓受証書ヲ紛失シタル節拒ンテ新讓受証文ヲ交付セヌ云々トアルヲ
 以上被告ノ申供ニ依ルキハ曾テ上告村ヨリ讓受ケタリト主張スル論地ノ賣買証書(素
 リ上告村ニ於テ論地ヲ賣渡シタル事等ナケレトモ被告上告村自
 家ノ申供ト認証トニ撞着アルヲ証スル爲メ茲ニ之ヲ提出ス)ハ曩ニ既ニ烏有ニ歸シタ
 ル取テ喋々ヲ俟タサルヘシ然ラハ則チ該証書ノ今更見當ルヘキ道理ナキヤ瞭々猶ホ火ヲ
 看ルカ如シ上告者ノ第十二號第十三號ニ徵ノ乙第一號人名ノ當時上告村ニアラサル而已
 ナラス別冊番外第一號ヨリ第三號ニ有之大庄屋ノ印影ト乙第一號印影トヲ相照合シテ其
 相違アルヲ証スヘク尙ホ一歩ヲ進メハ乙第一號ノ紙質及ヒ墨色タル一目シテ其後日ノ作
 爲タルヲ徵スヘシ況ンヤ被告上告村該第一號証書ヲ發見シタリト云フ郷倉ナル者ハ抑モ何
 等ノ品物ヲ貯藏スル場屋ナルカ是其米穀ヲ貯藏スルノ場屋タル問ハスシテ知ルヘキノミ
 然ラハ則チ其米穀ヲ貯藏スル場屋ニシテ尙ホ曩ニ燒失セシ文書ノ完然存在セシハ怪ム
 ヘク又實ニ驚クヘキノ次第ナラスヤ之レヲ要スルニ該乙第一號証ナルモノハ本件控訴ノ
 後ニアツテ作爲セシノ實況ハ以上ノ証左及ヒ事實ニ依テ推知スルニ足ル然ルチ原裁判所
 ハ是等ノ証據証蹟ヲ推究セヌ乙第一號ヲシテ真正ナルモノト判決セラレタルハ實ニ不當
 ノ裁判ナリトノコト

第二條

被告上告ハ其第一號以下ニ壹圓貳拾五錢トアルハ公税ニシテ論地所有ノ証左ナルモノ、如
 シ主張スルモ是レ決シテ然ルニアラサルナリ抑モ上告村ハ論地及ヒ南瀧山ト此二ケノ山
 地ニ對シ古來金壹兩三分ト銀八百文ヲ貢納セシハ上告第一號ニ就テ徵スヘシ然ラハ則チ

被告上告第一號金額ノ果シテ公税ナル場合ニ於テハ必スヤニケノ山反別ニ應シ壹兩三分八
 百文ノ金額ヲ公平ニ分賦シ以テ被告上告村ヨリ徵収セサルヘカラス然ルニ論地ノ反別拾町
 三反三畝拾歩ト南瀧山貳町壹反三步トニ該金額ヲ分賦セハ論地ニ對スル税金ハ壹圓五拾
 貳錢ヲ以テ相當ナルニ今上告村カ被告上告ヨリ徵収スル金額ノ總カニ壹圓貳拾五錢ニシテ
 其反別ニ相當セサルハ則チ該金額ノ公税ニアラスシテ下草料ナルノ明証ナリ然ルチ被告上
 告カ明治十四年十二月十三日附辨駁書第四條ニ被告上告第一號以下ノ山役錢ハ論地ノ所有
 者ヨリ収ムル税金ナルカ故ニ上告村ノ南瀧山ト論地トノ反別ニ應シ其税金即チ上告第一
 號証ニ記載セル金壹兩三分ト銀八百文ノ金額ヲ公平ニ分賦シテ負擔セシモノ、如ク申供
 セルハ蓋シ自家ノ非ヲ遂ケ得ントナシ却テ其非ヲ呈出セシモノト云ハサルヘカラス夫如
 ス乙第一號ノ不正ナルノミナラス被告上告カ上告村ヘ収ムル所ノ山役錢モ亦正當ナル公税
 ノ割合ニ適當セサルニ於テハ論地ノ被告上告所有地ト査定セラルヘキ道理ナキヤ明テカナ
 リ然シテ而カモ被告上告第九號ノ乙印ナル者ハ里正保正等ノ專擅ニ成立チタル保証ニ過キサ
 レハ決シテ被告上告村民カ甘結シテ其所有權ヲ移シタルノ証トナスヲ得ス又果シテ論地ハ被
 上告ノ所有地ナル場合ニ於テハ其四至ノ境界ヲ詳知スヘキハ勿論ナルコト今被告上告ハ其
 境界ノ何レナルヤヲ辨別スル能ハサルノミナラス現ニ論地中上告村ノ民林及ヒ新開畑等
 ノアルアルハ是レ被告上告ノ所有ニ非サル實跡也故ニ被告上告者ヨリ別冊番外第五號圖面ヲ呈
 供セルニ原裁判所ニ於テ總テ是等ノ事項ニ對シ何等ノ辨明ヲ與ヘラレサルハ蓋シ不尽ノ
 裁判ナリトノコト

仍ヲ辨所及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

本件論山ハ地方官ニ於テ上告第九號(被上告甲第一號)同シ
セラレ其地券ヲ下附セラレタルモノナリ是ヲ以テ該甲乙兩証ハ果シテ上告者ノ承認セザ
リシモノナルヤ否ヤヲ審判スルヲ最モ緊要ナリトス仍テ原裁判書類ニ就キ之ヲ按檢スル
ニ抑モ論山ハ曩ニ山林原野官民有區別取調ノ際上告村ニ於テ其第六號証ヲ以テ一村持山
ノ如ク書上ケ相成タルヲ被上告村ニ於テ更ニ該甲號証ノ如ク從來ノ成蹟等ヲ舉ケ自村ノ
所有ニ査定セラレシトシテ請願シ其地元タル上告村ニ於テモ之ヲ承認セラレタルハ即チ該
乙號証ニ明ラカナリ然ルヲ上告者ハ該乙號証ニ地主總代又ハ村會議員等ノ連署ナキヲ以
テ戸長及ヒ里正(當時ノ戸長里正トモ山形住ノ士族)保正等カ被上告者ト共謀シ私擅ニ作
爲シタルモノ、如ク申立レテ該甲乙兩証ノ事柄タル苟モ原被兩村ノ權利如何ニ關係スル
而已ナラス其兩村ヲ管轄スル戸長里正及ヒ保正等カ職務上ノ取扱ヒニ係ル請願ニシテ殊
ニ其保正ニ於ルモ上告村ノ住民ニシテ即チ上告者ト一村ノ利害ヲ共ニスル者ナリ若シ果
シテ戸長里保正等カ不正ナル所爲アルニ依リ該甲乙兩証ノ成立タルモノ也トセハ上告者
ニシテ論山ノ被上告所有ニ査定セラレタル當時ヨリ殆ント一年半ノ久シキ漫然默過スヘ
キ道理アル可ラサレハ其戸長及ヒ里正保正等ノ不正ナル所爲ヨリ成立タルトノ確証アラ
サル限りハ上告者ノ之ヲ承認セザリシ者トハ斷定シ難シトス是ニ由テ之ヲ觀ルモ被上告
甲第三號乃至第九號証ニ明記スル山役錢壹兩壹步ナルモノハ即チ論山ニ分賦セラレタル

公税ナリト推定セサルヲ得ス何ントナレハ上告第一號乃至第三號証及ヒ第十號証ナル
古書類(嘉永度反別任譯帳年貢免定年貢皆濟)ニ據テ看レハ論山(此反別拾町三)ノ税金
(草山拂代)ハ論外南瀧山(此反別貳町)トヲ併セテ壹兩三歩銀八百文ニシテ其兩山ノ現反
別ニ應シ之ヲ分賦スルキハ論山ノ壹兩壹步ハ之ニ適セサル而已ナラス延享度ノ指出帳ニ
依ルモ論山ハ其壹兩壹步ヲ以テ被上告村ノ草蒔場ニ立附置キタルモノ、如シト雖モ該稅
金タル當時ニケ山ヲ併セテ壹兩三歩銀八百文ヲ賦課セラレタルモノナレハ今ヨリ其一ケ
山ニ對スル稅額ノ程度ハ之ヲ知ルニ由ナキ而已ナラス單ニ現今ノ反別如何ニ仍リ其當否
ヲ論定スヘキ筋合ニ非サレハ是等ヲ以テ草蒔料トハ看做シ難シ殊ニ延享度指出帳ノ如キ
ハ他村即チ被上告村ニ對シ立証ノ具トスルニ足ラサレハナリ夫レ論山ノ被上告村所有ニ
歸スヘキ原由アルヲ認ムルニ足ルヘキヤ前文ニ詳論スル如シ設ヒ被上告乙第一號証即チ
論山讓証文ハ眞偽ノ分明ナラサル景狀アルニモセヨ原裁判所ハ獨リ此一號証ノミニ依リ
判定セシニ非スシテ前顯本訴ノ來歷其他ノ事實ヲ推考シ論山ハ被上告(原告)村ノ所有ニ
販スヘキモノト認シハ不當ニ非トス
但上告第一條ニ於テ上告者ハ原裁判所カ被上告乙第一號証(該証ハ寶永三年八月附)大庄屋印影ト
上告書外第一號証(寶永三年八月附古証文)大庄屋印影トノ對照云々及ヒ該被上告乙第一號証ノ紙
質墨色等ノ事項ニ論及セザリシハ不當ナル旨申立ルト雖モ明治十五年一月十二日附原
裁判所ノ上告者口供(被告)者)カ本日御參考トシテ呈セル証書ノ印云々)ト而已ア

リテ其審書モ提供セズ加ナルニ該番外一號証ニハ原裁判官ノ四印モナシ特リ明治十五年一月十二日附被上告弁駁書（該弁駁書ハ上告者ニ於テ一）最後ニ被告（上告者）ハ享保年中ノ古書ニアル大庄屋佐久間久左工門ノ印影云々トアルニ仍テ看レハ該番外一號証ハ當時上告者ノ携帶セサリシモノニシテ其他ノ番外第二三號証即チ享保年度ニ係ル古証文ヲ提供シタルニ過キサレハ原判文ニ（當時ニアツテ其印判ノ相違ナリト）ノ舉証アラサル限リハ云々トアルモ敢テ不當ノ判語ト做シ難シ且該被上告乙第一號証ノ紙質墨色ニ至テハ上告者カ曾テ一言ノ爰ニ及ヒタルモアラサレハ原裁判所ニ於テ何等ノ弁明ヲ與ヘサリシモ不當ニ非ストス

又上告第二條ニ上告者ハ論山ノ境界又ハ耕地等ノ事項ニ關シ原裁判所カ何等ノ弁明モ與ヘサリシハ不盡ノ裁判ナリト申立レモ本件ノ争点ハ當初ヨリ土地所有權ノ一途ニ在リテ境界ニ關スルモノニ非ス且論山ニ接續スル耕地等ノ如キハ上告者ノ陳供スル所ニ依ルモ被上告者ハ之カ所有ヲ争ハサリシモノ、如クナレハ原裁判所ニ於テ之ニ弁明ヲ與エサリシハ當然ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ宮城控訴裁判所ノ裁判ハ破毀スルヲ得サルモノトス
但上告入費ハ上告者ヨリ辨納スヘシ
第二百八十二號

○山林下草代金要求一件判文（明治十五年四月七日上告）
（明治十五年七月三十一日申渡）

上告人

千葉縣上総國周准郡畑澤村
九十一番地平民小泉忠治代
人

東京府赤坂區赤坂裏二丁目
八番地

渡邊比良政

千葉縣上総國周准郡畑澤村

七十六番地平民

杉森藤八

外二十二名

被上告人

山林下草代金要求一件木更津始審裁判所ノ終審裁判ヲ不法トシ上告スル要領左ノ如シ

一原判文ニ「山地ハ原ト官有ニ屬シ被告古來ヨリ無價採草スルモノナリ然ルニ該山原告ノ所有ニ歸シタルハ明治十一年ニシテ甲第一號乙第二號ハ先所有主ト被告ト約定シタルモノナルコ本訴ノ下草代金ハ明治十年ヨリ同十二年迄三ヶ年分ヲ甲第二號証ニ基キ請求スルモノニシテ其証タル明治十三年一月ニ約定シタルモノナレハ未ダ約定セサル以前ニ溯リテ請求スルヲ得サルモノトス」ト判定セラレタルニ抑上告者カ明治十年分ノ下草代金ヲ得ルノ權利ハ當時ノ所有主谷幡晋ヨリ該地支配ヲ托セラレシ努力ニ充テ其入額權ヲ讓與セラレタルモノナルヲ以テ之ヲ請求スル所以ナリ

上告者ニ於テ此權利アルヲ被上告

四四九

者モ承認シ居ルノ証ハ明治八年十一月三日被上告者等カ佐貫警察署ニ上告者一人ヲ相手トシテ該山下草ノ付吟味願出タルヲ以テ判然ナリ
二兩年分ハ現ニ該山ノ所有權ヲ得タルヲ以テ其下草代金ヲ請求スル所以ナリ然レハ明治十三年ノ約定ヲ以テ其以前ニ溯ルモ妨ナキニ前文ノ如ク判定セラレタルハ不當ナリトノコト

右ノ通ナルニ依リ上告狀ハ參考トセラレ前要点ニ對シ辨明判決アラントコト

辨明

上告人ニ於テ明治十年分ノ下草代金ヲ得ルノ權利ハ當時ノ所有主谷幡晋ヨリ該山入領權ノ讓與ヲ受タルニ因ル旨申立レ右ハ原裁判所ニ申立サル事柄ナレハ之ヲ以テ原裁判所當否ヲ論スルヲ得サルモノトス又明治十一年二兩年分ハ現ニ論山ノ所有權ヲ得タルモノナレハ明治十三年ノ約定ヲ以テ其以前ニ遡ラシムルモ妨ナキ旨申立レ右十三年ノ約定書即上告甲第二號証ニハ前年ニ迄モ遡ルヘキノ特約ナケレハ該山ノ所有權ハ其以前ヨリ得タリト云ノミテ以テ右契約ヲ前年ニ遡ラシムルニ妨ナキノ理由ト爲スヲ得サルモノトス因テ原裁判所カ上告人ノ請求不相立旨言渡タルハ相當ナリトス

判決

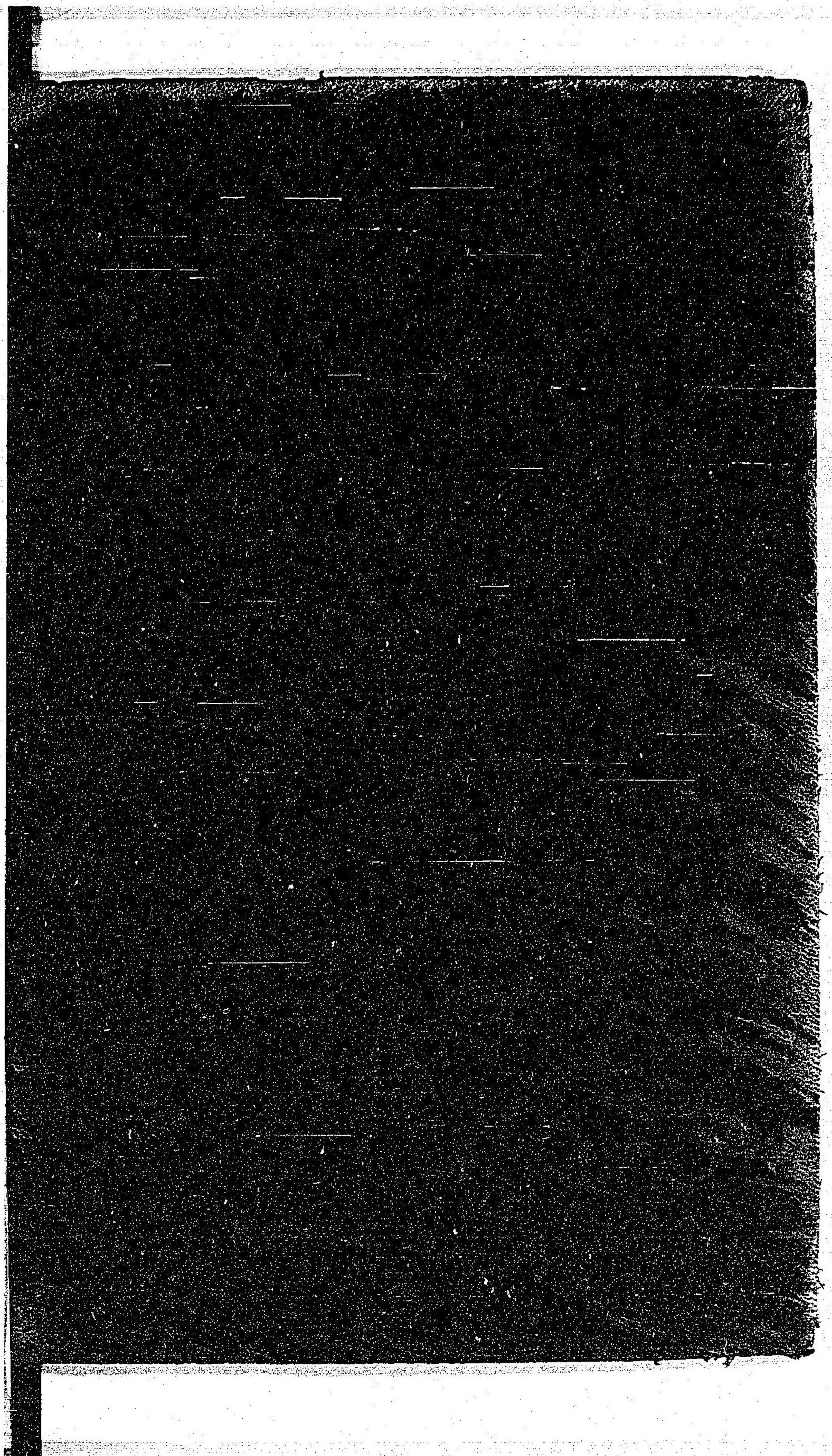
右辯明ノ次第ニ付本更津始審裁判所カ明治十五年二月廿七日日本訴ニ與ヘタル終審裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

但シ上告入費ハ上告人ヨリ辨納スヘシ

147

明治十六年十月九日 版權屆

定價 壹圓拾錢



14.7
1

東 京 圖 書 館					
四 冊	一 号	二 架	二 九 函	屬	類

036566-026-5

CZ-2811-10

大審院民事判決録

明8.7-14.6 14.10-17.12月
司法省

M11-19

BBR-0632



